

学 習 要 項

第3学年

2012



東京女子医科大学
看護学部

目 次

東京女子医科大学の建学の精神、大学の理念	1
看護学部の教育理念、教育目的	2
看護学部の教育目標、第3学年教育目標	2
授業科目および単位数	3
臨地実習における個人情報保護に関する指針	7

科目別到達目標・講義スケジュール

生活している人間の環境

家族関係論	9
-------	---

健康障害と生活の調整

健康科学論	11
-------	----

働きかけの基本 看護活動

老年看護学・各論	15
小児看護学・各論	19
母性看護学・各論	22
地域看護学・概論	25
地域看護学・各論	28
精神看護学・各論	32
在宅看護論	35
成人看護学実習Ⅱ	38
老年看護学実習	41
小児看護学実習	45
母性看護学実習	47
地域看護学実習Ⅰ	50
健康教育学	53

人間性を育む	
英語Ⅱ	57
英語Ⅳ	63
フランス語Ⅱ	69
中国語	71
各専門領域への発展	
研究方法論	73
キャリア発達論Ⅲ	76
国際看護	78
統合実習・卒業論文（4年次科目）	
統合実習・卒業論文	81
養護教諭一種免許課程	
公衆衛生学	83
学校保健	87
養護概説	90
教育方法論	93
生徒指導論	95
教育相談	97
日本国憲法	100
第3学年授業担当教員	103

カレンダー

東京女子医科大学

I. 建学の精神

東京女子医科大学は、1900年（明治33年）に創立された東京女醫學校を母体として設立された。東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生は、1952年（昭和27年）新制大学設立に際し、東京女醫學校創立の主意をもって建学の精神とした。その主旨は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することであった。新制大学設立時の学則には「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」と記されている。

建学の精神に基づく医療人育成の場として、1998年（平成10年）度より新たに看護学部が新設された。医療を行うものが学ぶ学府として、現在の東京女子医科大学の使命は、最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことである。大学建学の精神に基づき、大学教育では社会に貢献する女性の医療人を育成する。

II. 大学の理念

東京女子医科大学の使命を達成するための教育・研究・診療の基盤となる理念は、「至誠と愛」である。至誠は、「常住不断私が患者に接するときの根本的な心構えを短い二つの文字のなかに言い現したもの（吉岡彌生傳）」という創立者吉岡彌生の座右の銘であり、「きわめて誠実であること」「慈しむ心（愛）」は教育・研究・診療の総ての場において求められる。大学およびそこに学び働くものは本学の理念である「至誠と愛」に従って活動しなくてはならない。

看護学部教育理念

本学部は「女性の社会的地位の向上と経済的自立を目指すと共に、至誠と愛の精神に基づき医療を行う人材を育成する」という創立者吉岡彌生の趣旨を受けつぎ、これを教育の基本理念とする。

本学部における教育は学生が自ら学び成長しようとする向上心を側面から支援することであると考える。それは、学生一人一人の個性を尊重する教師と、自ら学ぼうとする学生との真剣な相互作用の過程において創られるものである。

看護学部の教育目的

本学部は、建学の精神に基づき、変動する社会情勢の中で看護の役割を認識し、責任を自主的に果たし得る看護実践者を育成する。すなわち、いかなる状況下においても、医療倫理を遵守し、至誠と愛の精神に基づいて行動できる看護職者としての基礎を確立することを目的とするものである。さらに、本学部の教育は、看護の専門性を追求し、看護学の発展に寄与できるための基礎を養うものである。

看護学部の教育目標

看護はあらゆる健康のレベルにある人々を対象とし、それらの人々の健康レベルの向上を目指して援助を行うものであり、この援助活動は、人々の生活を尊重し、人間理解に根ざした関係を基盤として、継続的に行われるものである。看護は人間としてさけられない「生・老・病・死」とかかわりを持ちながら、対象者との密接な人間関係を通して行われていくものである。したがって、看護者には豊かな人間性と科学的思考に支えられた創造的・主体的行動が求められる。

本学部は以下の教育目標を掲げる。

- 1) 豊かな人間性を養い、生活者としての人間を理解する基礎能力を養う。
- 2) 看護実践に必要な科学的思考および看護の基本技術を身につけ、人間関係を基盤として、健康問題を解決する能力を養う。
- 3) 社会情勢の変化に応じて、保健・医療・福祉チームの中で主体的かつ協調的に看護の役割を果たすとともに、現状を変革する基礎能力を養う。
- 4) 研究の基礎能力を養う。
- 5) 専門職者として自己の能力を評価し、自己成長のできる基盤を養う。
- 6) 国際的な視野に立って活動できる基礎能力を養う。

第3学年教育目標

1. これまでに学んだ知識・技術を活用し、あらゆる健康状態にある人との関わりの中で、よりよい看護を探求する。
2. さまざまな対象者への看護を実践する中で、自己の看護観を深める。
3. 主体的な学習態度を基盤として、他者と共に学ぶ能力を持つ。
4. 研究の基礎的知識・態度を学ぶ。

看護学部の授業科目および単位数

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数	
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間の 本質を問う	心 理 学	1		15			1							1
	生物としての人間	2		15	2									2
	栄 養 代 謝 学	2		23	1	1								2
	人体の構造と機能	4		60	2	2								4
	人 間 発 達 論	1		8	1									1
	人 間 関 係 論	1		15			1							1
	生 体 の 化 学	1		8		1								1
	人 間 援 助 論 I	1		15	1									1
	医療における倫理学	2		15			2							2
	人 間 援 助 論 II		1	8								1		3
	哲 学		1	8	1									
	女 性 論		1	8								1		
	論 理 学		1	8			1							
	計	15	4	206	8	4	4	1	0	0	2	0		18
生活している人間の環境	生 体 防 御 機 構	1		15			1							1
	感 染 看 護	1		8			1							1
	疫 学	1		15								1		1
	医療行政・関係法規	2		30						1	1			2
	社 会 福 祉 学	1		15			1							1
	家 族 関 係 論	1		8				1						1
	文 化 人 類 学		1	8							1			3
	社 会 と 人 間		1	8			1							
	生 活 科 学 論		1	8	1									
	人 間 生 活 と 法		1	15								1		
	人 間 生 活 と 経 済		1	8				1						
史 学		1	8	1										
計	7	6	146	2	0	4	1	1	0	2	3		10	
健康障害と生活の調整	健 康 科 学 論	1		15				1						1
	薬 理 学	2		23			1	1						2
	病態学・概論	2		15		2								2
	病態学・各論Ⅰ（内科系）	4		60			2	2						4
	病態学・各論Ⅱ（外科系）	2		30			1	1						2
	病態学・各論Ⅲ（小児）	1		15				1						1
	病態学・各論Ⅳ（母性）	1		15				1						1
	病態学・各論Ⅴ（老年）	1		8				1						1
	病態学・各論Ⅵ（精神）	1		8				1						1
	人 間 工 学	1		8	1									1
	保 健 医 療 行 動 科 学	1		15								1		1
	リハビリテーション	1		8				1						1
	医 学 特 論		1	8								1		0
計	18	1	228	1	2	4	9	1	0	0	2		18	

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数		
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
働きかけの基本 看護活動	看護学・概論	2		15	2										2
	基礎看護学・各論Ⅰ (生活援助論)	2		30	2										2
	基礎看護学・各論Ⅱ (診療に伴う援助論)	2		30		2									2
	基礎看護学・各論Ⅲ (看護過程論)	1		15		1									1
	成人看護学・概論	1		8			1								1
	成人看護学・各論Ⅰ (健康各期の看護)	2		23			2								2
	成人看護学・各論Ⅱ (専門領域の探求)	2		23				2							2
	フィジカルアセスメント	1		15			1								1
	老年看護学・概論	1		15				1							1
	老年看護学・各論	2		23					2						2
	小児看護学・概論	1		8				1							1
	小児看護学・各論	2		30					2						2
	母性看護学・概論	1		8				1							1
	母性看護学・各論	2		30					2						2
	地域看護学・概論	1		8					1						1
	地域看護学・各論	2		23					2						2
	精神看護学・概論	1		8				1							1
	精神看護学・各論	2		23					2						2
	在宅看護論	2		15					2						2
	基礎看護学実習Ⅰ	1		23	1										1
	基礎看護学実習Ⅱ	2		45		2									2
	成人看護学実習Ⅰ	2		45				2							2
	成人看護学実習Ⅱ	4		90						4					4
	老年看護学実習	2		45						2					2
	小児看護学実習	2		45						2					2
	母性看護学実習	2		45						2					2
	地域看護学実習Ⅰ	2		45						2					2
	地域看護学実習Ⅱ(保選)		4	90							4				0
	精神看護学実習	2		45								2			2
	統合実習Ⅰ	2		45								2			2
	統合実習Ⅱ	2		45								2			2
	健康教育学(養選)(保選)		1	15							1				0
コミュニケーションの理論と実際(養選)		1	15								1			0	
計		53	6	988	5	5	4	8	13	13	11	0		53	

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数		
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
人間性を育む	フィットネスの理論と実技	2		30	1	1									2
	英 語 I - 1	2		30	1	1									2
	英 語 I - 2	2		30			1	1							2
	英 語 II	2		30					1	1					2
	英 語 III		2	30							1	1			
	英 語 IV ☆		2	30			(2)		(2)		2				
	ド イ ツ 語 I	2		30	1	1									
	ド イ ツ 語 II	2		30			1	1							
	フ ラ ン ス 語 I	2		30			1	1							
	フ ラ ン ス 語 II	2		30					1	1					
	中 国 語	2		30					1	1					4
	日 本 語 学	2		23	1	1									
	美 術	2		30	1	1									
	音 楽	2		30	1	1									
	パフォーマンス芸術論	1		15										1	
国 際 関 係 論	1		8										1	3	
計	8	22	436	6	6	3	3	3	3	3	3	3	3	15	
各専門領域への発展	保健医療統計学	1		15				1						1	
	情報科学演習Ⅰ	1		15	1									1	
	情報科学演習Ⅱ	1		15				1						1	
	リエゾン精神看護	1		8									1	1	
	研究 方 法 論	1		15					1					1	
	キャリア発達論Ⅰ	1		15	1									1	
	キャリア発達論Ⅱ	1		15			1							1	
	キャリア発達論Ⅲ	1		15					1					1	
	キャリア発達論Ⅳ	1		15							1			1	
	卒 業 論 文	1		15							1			1	
	国 際 看 護 ☆		2	30					(2)		2			0	
	先端医療における看護		1	8									1	0	
計	10	3	181	2	0	1	2	2	0	4	2		10		
合 計	111	42	2185	24	17	20	24	20	16	22	10		124		
				41		44		36		32					

(養選)は養護教諭一種免許を取得するための選択必修科目。

(保選)は保健師の国家試験受験資格を得るための選択必修科目。

ただし、健康教育学については3年次選択科目として全員が履修可能。

☆ 印については、海外研修参加年次に履修および単位の認定を行う。

(注) 英語Ⅲと英語Ⅳの重複単位認定はできない。

卒業に要する単位数

開 講 区 分	卒業に要する単位数		
	必修	選択	合計
人間の本質を問う	15	3	18
生活している人間の環境	7	3	10
健康障害と生活の調整	18	0	18
働きかけの基本・看護活動	53	0	53
人間性を育む	8	7	15
各専門領域への発展	10	0	10
計	111	13	124

前学期

4月 1日 ~ 10月 15日まで

後学期

10月 16日 ~ 翌年 3月 31日まで

(注)「人間性を育む」の選択科目は、語学から4単位以上、その他の科目から3単位以上を履修しなければならない。(詳細は学生便覧を参照のこと)

養護教諭一種免許課程に関する科目および単位数

授 業 科 目	単 位 数	コ マ 数	配当年次および単位数								
			1年次		2年次		3年次		4年次		
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
公 衆 衛 生 学	2	15					2				
疫 学 △	1	15									1
健 康 科 学 論 △	1	15					1				
学 校 保 健	2	15						2			
学 校 保 健 管 理 論	1	8								1	
養 護 概 説	2	15						2			
健 康 教 育 学	1	15						1			
コミュニケーションの理論と実際	1	15								1	
栄 養 代 謝 学 △	2	23	1	1							
人体の構造と機能△	4	60	2	2							
生 体 防 御 機 構 △	1	15			1						
薬 理 学 △	2	23			1	1					
精神看護学・概論△	1	8				1					
精神看護学・各論△	2	23					2				
基礎看護学・各論Ⅰ(生活援助論)△	2	30	2								
基礎看護学・各論Ⅱ(診療に伴う援助論)△	2	30		2							
基礎看護学・各論Ⅲ(看護過程論)△	1	15		1							
成人看護学・各論Ⅱ(専門領域の探求)△	2	23				2					
成人看護学実習Ⅰ△	2	45				2					
母性看護学・概論△	1	8				1					
母性看護学・各論△	2	30					2				
小児看護学・概論△	1	8				1					
小児看護学・各論△	2	30					2				
小児看護学実習△	2	45						2			
地域看護学・各論△	2	23					2				
教 職 入 門	2	15			2						
教 育 学 概 論	2	15				2					
教 育 心 理 学	2	15			2						
教 育 課 程 論	2	15			2						
教 育 方 法 論	2	15						2			
生 徒 指 導 論	2	15						2			
教 育 相 談	2	15						2			
教職実践演習(養護教諭)	2	15									2
養 護 実 習	5	113									5
日 本 国 憲 法 ★	2	15			2		(2)		(2)		
フィットネスの理論と実技△	2	30	1	1							
英 語 I - 1 △	2	30	1	1							
情 報 科 学 演 習 I △	1	15	1								
情 報 科 学 演 習 II △	1	15				1					

★ 印については、2年次に履修しておくことが望ましい。

△ 印については、卒業に必要な必修科目。

東京女子医科大学看護学部

臨地実習における個人情報保護に関する指針

教務委員会

学則ならびに本学部の教育目的に基づき、学生はいかなる状況下においても医療倫理を遵守することが求められる。本学部学生が臨地実習を行う場合には、以下の学則ならびにガイドライン等に基づき、実習で受け持つ患者様等の個人情報を保護するものとする。

(1) 学則 第 11 章 学生に関する規定

(学生に関する規定)

第 36 条 個人情報保護に関する本学のガイドラインに則り、学生生活で得られる個人情報は学習の目的のみに利用し、これを生涯守秘することを義務とする。
なお、指示に応じてその都度所定の誓約書に署名するものとする。

2. 本学則の定めるもののほか、学生に関する規定を別に定める。

(2) 東京女子医科大学における個人情報の保護に関するガイドライン

(3) 東京女子医科大学における情報公開の指針

具体的には、以下の点に留意することとする。

- ①診療録・看護記録等の閲覧は施設内の決められた場所で行うこと。
- ②実習記録には個人が特定できる情報は記載しないこと。
- ③実習記録は厳重に保管し紛失しないこと。
- ④実習終了後は、実習記録を個人の責任のもとに断裁処分すること。

科目別到達目標
科目別講義スケジュール

生活している人間の環境

〔家族関係論〕

科目責任者 松寄 英士

目的

少子、高齢化の進む中で育児不安、病者を抱える家族の苦悩、子供や高齢者の虐待、非行問題、夫婦間の暴力、離婚の増加、ステップファミリーなどの新たな家族形成といった諸問題が大きく浮上してきている。また、さまざまな問題を抱えた家族、高齢者のケアなどは専門家の支援が必要となっている。この講義では、家族、家族関係とその病理を理解し、その回復の鍵とそれを支援するのにどのようなことが必要なのかを探ることを目的とする。

到達目標

家族とはいったい何なのかを考え、その機能と役割を家族システム論の観点から理解する。
 家族の形成・発達を理解し、家族のなかの病理と回復の鍵、その支援のあり方を理解する。

大項目	中項目	小項目
I. 家族とは	1. 家族の定義	1) 家族の機能と役割 2) 家族形態の多様化 3) 家族システム論 4) 家族の中でクライアントを理解することの意義
II. 家族の発達と病理	1. 親子関係 2. 夫婦関係	1) 親子関係の成り立ち 2) 親子関係の病理 1) 関係の親密性とその心理 2) 結婚生活と夫婦関係、その病理
III. 家族のケア	1. 問題を抱えた家族の心理と支援	1) 家族と問題行動 2) 患者家族支援のアプローチ

評価方法

レポート、小課題の結果により評価を行う

教科書

教科書は指定せず、必要な資料等を毎回配布する。

参考図書

岡堂哲雄 編	系統看護学講座（別巻 15）－ 家族論・家族関係論	医学書院	2004
柏木恵子	家族心理学 社会変動・発達・ジェンダーの視点	東大出版会	2003
柏木恵子／平木典子	家族の心はいま	東大出版会	2009
村尾泰弘	家族臨床心理学の基礎	北樹出版	2001

<講義スケジュール>

1	2013. 4.16	火	16:10～17:35	松寄 英士	家族の機能と役割、家族形態の多様化
2	4.17	水	16:10～17:35	松寄 英士	家族システム論、家族臨床心理学の基礎
3	5.17	金	9:00～10:25	松寄 英士	親子関係の成り立ち
4	6.28	金	14:35～16:00	松寄 英士	親子関係の病理
5	7. 2	火	13:00～14:25	松寄 英士	夫婦関係の親密性、その関係の心理と病理
6	7. 9	火	14:35～16:00	松寄 英士	家族と問題行動
7	7.10	水	10:35～12:00	松寄 英士	家族支援のアプローチ
8	7.12	金	13:00～14:25	松寄 英士	まとめとレポート作成

健康障害と生活の調整

〔健康科学論〕

科目責任者 松岡 雅人

科目担当者 松岡 雅人、柳 修平、野原 理子、
蔣池 勇太、藤木 恒太、奥津 康祐

目的

健康の概念について多角的に、また、健康を生物要因、遺伝要因、環境要因（含む社会的環境要因）および生活習慣の各側面から追求し、健康の本質について理解する。

到達目標

1. 健康の定義を説明できる。
2. 健康に影響をおよぼす要因について説明できる。
3. 生活環境中の有害要因をあげ、健康におよぼす影響について説明できる。
4. 労働環境中の有害要因をあげ、健康におよぼす影響について説明できる。
5. 生活習慣が健康におよぼす影響について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 健康科学論	1. 健康の概念	1) 健康観の変遷 2) 健康の概念 3) 環境への適応
	2. 健康と環境	1) 環境問題の変遷 2) 地球環境問題 3) 環境遺伝子相互関係
	3. 健康と生活環境	1) 水・大気・土壌 2) 騒音・振動
	4. 健康と労働環境	1) 職域における健康管理 2) 物理的要因 3) 化学的要因
	5. 健康とライフスタイル	1) 食生活・栄養 2) 運動 3) 休養・レクリエーション 4) 嗜好品（タバコ・アルコール）
	6. 健康と薬物	1) 薬物 2) 毒物

評価方法

試験結果により評価を行う

教科書

指定なし

参考図書

千葉百子 ^他 編	コンパクト公衆衛生学	朝倉書店	2008
横山英世 監修	新衛生・公衆衛生学	日本医事新報社	2012
田中正敏 ^他 編	衛生・公衆衛生学 環境と健康	杏林書院	2009
熊倉伸宏 編	社会医学がわかる公衆衛生テキスト 2006	新興医学出版	2006
高島 豊 編	実践予防医学 理論と実際	診断と治療社	2003
田中 逸	健診・健康管理専門職のためのセミナー生活習慣病	日本医事新報社	2008
鈴木庄亮、久道 茂 編	シンプル衛生公衆衛生学 2012	南江堂	2012
岸 玲子 ^他 編	NEW 予防医学・公衆衛生学	南江堂	2012
柳川 洋・中村好一	公衆衛生マニュアル 2012	南山堂	2012
和田 攻 編	産業保健マニュアル	南山堂	2006
厚生労働省	国民衛生の動向	厚生統計協会	年刊
厚生労働省	厚生労働白書	ぎょうせい	年刊
環境省	環境白書	ぎょうせい	年刊
厚生労働省	労働衛生のしおり	中央労働災害防止協会	年刊

<講義スケジュール>

1	2013. 4.15	月	10:35~12:00	松岡 雅人	健康科学論序論
2	4.17	水	10:35~12:00	松岡 雅人	環境毒性学
3	4.22	月	10:35~12:00	蔣池 勇太	食品衛生学
4	4.24	水	10:35~12:00	松岡 雅人	上水・下水と廃棄物処理
5	5. 8	水	10:35~12:00	藤木 恒太	環境汚染と公害1 (公害、環境保全)
6	5.15	水	10:35~12:00	柳 修平	環境汚染と公害2 (地球環境問題)
7	5.22	水	9:00~10:25	松岡 雅人	環境汚染と公害3 (ダイオキシン、内分泌攪乱化学物質)
8	5.27	月	10:35~12:00	蔣池 勇太	ヒトの遺伝と染色体異常
9	5.29	水	10:35~12:00	土肥誠太郎	産業保健1 (産業保健総論)
10	6. 3	月	10:35~12:00	藤木 恒太	健康づくりのための運動
11	6.12	水	10:35~12:00	奥津 康祐	産業保健2 (医療現場の健康管理)
12	6.17	月	10:35~12:00	松岡 雅人	産業保健3 (化学的要因による健康障害)
13	6.19	水	10:35~12:00	野原 理子	産業保健4 (物理的要因による健康障害)
14	6.24	月	10:35~12:00	野原 理子	産業保健5 (就労女性の健康管理)
15	6.26	水	10:35~12:00	松岡 雅人	試験

働きかけの基本 看護活動

〔老年看護学・各論〕

科目責任者 水野 敏子
 科目担当者 水野 敏子、小山千加代、坂井 志麻、
 原沢のぞみ、成澤 明、松村美由起、
 三村 千弦

目的

老年期に特有な健康障害及びその症状への看護を学ぶと共に、高齢者を取り巻く家族や地域社会との関係及び社会システムも含めて、高齢者が健やかに暮らすための看護について学ぶとともに、期待される役割について省察する。

到達目標

1. 高齢者の機能低下に伴う健康上のリスクを示し、アセスメントの方法と看護について説明できる。
2. 摂食・嚥下障害のある人の看護について説明できる。
3. 高齢者への吸引の方法及び観察点、注意点を理解し、安全に実施できる。
4. 認知症の病態、アセスメントと看護について説明できる。
5. 治療に伴って生じやすいリスクと看護について説明できる。
6. 高齢者を介護している家族を支援することの必要性和家族支援の方法について説明できる。
7. 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉制度の概要について説明し、チームの中での看護の役割について述べることができる。
8. 高齢者の終末期看護の特徴と必要とされる看護について説明できる。
9. 老年看護領域の倫理的問題について具体例を挙げ、権利擁護という視点から説明することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 老年期における健康障害と看護	1. 老年期の健康生活を支える看護	1) 高齢者と家族の健康生活を支える 2) 脱水症と看護、排便障害と看護 3) 摂食・嚥下障害と看護 4) 吸引の手順と技術
	2. 老年期における主な治療方法と看護	1) 薬物療法と看護 2) 手術療法と看護（せん妄含む） 3) 高齢者のリハビリテーション看護
II. 認知症高齢者の看護	1. 認知症とは	1) 認知症の定義、原因、識別、評価 2) 認知症の代表的な原因疾患と症状 3) 認知症高齢者のアセスメントの進め方
	2. 認知症高齢者の症状と看護	1) 症状の特徴と効果的な援助 2) 家族間に生じる問題 3) 介護家族への援助
	3. 認知症の看護に活用される療法	1) 作業療法 2) 回想法、リアリティ・オリエンテーション 3) 音楽療法、園芸療法、その他
	4. 認知症高齢者と家族のサポートシステム	1) 通所サービス 2) グループホーム 3) 家族会 4) 地域ケアシステムづくり

大項目	中項目	小項目
Ⅲ. 老年看護の展開	1. 健康障害をもつ高齢者の統合的なアセスメントとは	1) 疾患をもった高齢者の看護過程
Ⅳ. 保健・医療・福祉制度とケアマネジメント	1. 高齢者保健・医療・福祉制度の動向 2. ケアマネジメントとケアプランの実際	1) 高齢者人口の推移と老人保健（介護保険） 2) 高齢者の保健・医療・福祉制度とサービス体系 1) ケアマネジメントとチームアプローチの必要性 2) 介護保険福祉施設における老年看護 3) ケアマネジメントとケアプラン
Ⅴ. 老年看護の活動の場	1. 病院・高齢者施設における老年看護と継続看護 2. 高齢者の家族機能と家族支援	1) 病院における老年看護 2) 高齢者施設における老年看護 3) 病院・施設における感染症とその予防 4) 地域に継続する老年看護 1) 高齢者と家族への退院支援
Ⅵ. 高齢者の終末期看護	1. 高齢者における終末期看護 2. 家族の悲嘆への援助 3. 高齢者の死に関わる権利 4. 高齢者の死を看取る場所	1) 終末期看護の基本 2) 高齢者の終末期看護の実践 3) 家族に必要な終末期看護 1) 家族へのサポート 2) 死亡した高齢者の人生の肯定 1) 死に関する高齢者の自己決定権 2) 高齢者のリビング・ウィル 1) 老いを看取るさまざまな場所
Ⅶ. 老年看護の倫理	老年看護活動と倫理	1) 身体拘束廃止とその取り組み 2) 高齢者虐待

評価方法

試験結果、レポート、技術演習などによって総合的に評価を行う。

教科書

水谷信子、水野敏子^他 最新 老年看護学 改訂版 日本看護協会出版会 2011

参考図書

厚生統計協会 厚生指標 国民衛生の動向 厚生統計協会 年刊
 内閣府 編 高齢社会白書 内閣府 年刊
 厚生労働省 監修 厚生労働白書 ぎょうせい 年刊
 宇都宮宏子、三輪恭子編 これからの退院支援・退院調整 日本看護協会出版会 2012

木下佳子監修	ビジュアル臨床看護技術ガイド —写真でみる看護手順	照林社	2011
日本老年医学会雑誌 編集委員会 編	老年医学 update2010-11	メジカルビュー社	2010
水野敏子企画・構成	臨床看護「あなたの病棟の高齢者看護」	へるす出版	2010
井藤英喜 編	統計データでみる高齢者医療	文光堂	2009
山田律子 _他	生活機能からみた老年看護過程 +病態・生活機能関連図	医学書院	2008
才藤栄一/向井美恵 監修	摂食・嚥下リハビリテーション第2版	医歯薬出版	2007
小澤 勲、黒川由紀子 著	認知症と診断されたあなたへ	医学書院	2006
大内尉義 編	高齢者の退院支援と在宅医療 (日常診療に活かす老年病ガイドブック 8)	メジカルビュー社	2006
高崎絹子 _他	最新 老年看護学	日本看護協会出版会	2005
宮川哲夫 著	動画でわかるスクリーニング	中山書店	2005
日本老年医学会 編	高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2005	メジカルビュー社	2005
三浦文夫 編著	図説・高齢者白書	全国社会福祉協議会	2003
荒川義子 _他 監修	介護保険時代の医療福祉 総合ガイドブック第3版	医学書院	2003
大田仁史 著	終末期リハビリテーション	荘道社	2002
聖隷三方原病院嚥下チーム	嚥下障害ポケットマニュアル	医歯薬出版	2002
井村裕夫 監修	看護のための最新医学講座〈2〉呼吸器疾患	中山書店	2001
大川弥生 著	目標指向的介護の理論と実際	中央法規	2000
渡辺俊之 著	リハビリテーション患者の心理とケア	医学書院	2000
総務庁 編	平成11年高齢社会白書国際高齢者年	大蔵省印刷局	1999
小澤利男 _他 編著	高齢者の生活機能評価ガイド	医歯薬出版	1999

<講義スケジュール>

1	2013. 4.11	木	16:10~17:35	水野 敏子	高齢者と家族の健康生活を支える
2	4.12	金	14:35~16:00	小山千加代	老年看護における倫理的問題
3	4.12	金	16:10~17:35	原沢のぞみ	排便障害と看護・脱水症と看護
4	4.16	火	13:00~14:25	松村美由起	認知症高齢者の看護(病態の理解)①
5	4.25	木	14:35~16:00	坂井 志麻	認知症高齢者の看護②
6	5. 7	火	13:00~14:25	原沢のぞみ	薬物療法と看護
7	5. 7	火	14:35~16:00	原沢のぞみ	手術療法と看護(せん妄を含む)
8	5.10	金	9:00~10:25	坂井 志麻	摂食・嚥下障害と看護①
9	5.10	金	10:35~12:00	坂井 志麻	摂食・嚥下障害と看護②
10	5.24	金	13:00~14:25	坂井 志麻	吸引講義
11	5.28	火	9:00~10:25	坂井 志麻他*	吸引演習/ 尿失禁と看護(課題学習)
12	5.28	火	10:35~12:00	坂井 志麻他*	吸引演習/ 尿失禁と看護(課題学習)
13	6. 3	月	13:00~14:25	小山千加代	尿失禁と看護
14	6. 6	木	16:10~17:35	坂井 志麻	疾患をもった高齢者の看護過程
15	6. 7	金	10:35~12:00	坂井 志麻	保健福祉医療制度とケアマネジメント
16	6.10	月	13:00~14:25	坂井 志麻	高齢者と家族の退院支援
17	6.13	木	14:35~16:00	小栗 智美	老いと死/高齢者における終末期看護
18	6.13	木	16:10~17:35	水野 敏子	高齢者の死に関わる権利 / 高齢者の死を看取る場所
19	6.14	金	9:00~10:25	小山千加代	高齢者施設における老年看護
20	6.14	金	10:35~12:00	小山千加代	感染症とその予防
21	6.17	月	13:00~14:25	坂井 志麻他**	疾患をもった高齢者の看護過程演習
22	6.24	月	13:00~14:25	三村 千弦他***	卓越した老年看護実践の実際(各看護の場における)
23	6.27	木	13:00~14:25	水野 敏子	試験

* 坂井 志麻、小山千加代、原沢のぞみ、成澤 明、水野 敏子

** 坂井 志麻、原沢のぞみ、小山千加代、成澤 明、水野 敏子

*** 三村 千弦、我妻 雪子、水野 敏子、小山千加代

〔小児看護学・各論〕

科目責任者 日沼 千尋

科目担当者 日沼 千尋、関森みゆき、奥野 順子、
青木 雅子、櫻田 章子、山田咲樹子、
榆木 志帆

目的

子どもを成長・発達および生活の側面から理解し、健康の増進、苦痛の緩和、健康の回復あるいは穏やかな死に向けて、子どもの看護について理解する。

到達目標

1. 子どもの形態的成長と機能的発達について、「生活行動を支えるもの」の側面から説明することができる。
2. 子どもの生活について「生活行動」の側面から説明することができる。
3. 子どもの一般的な健康問題について述べることができる。
4. 健康障害のある子どもの特徴と看護について説明することができる。
5. さまざまな状況にある子どもの看護について述べることができる。
6. 症状のある子どもの看護について述べることができる。
7. 事例を用いて子どもの特徴をふまえた看護を紙上で展開することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 子どもの成長・発達と生活	1. 子どもの生活行動を支えるもの	1) 大きさ・重さ 2) 恒常性を維持するしくみ
	2. 子どもの生活行動と一般的な健康問題	1) 動く 2) 眠る 3) 食べる 4) 排泄する 5) 身だしなみを整える 6) 女らしさ・男らしさ 7) 見る・聞く・話す 8) 感じる・考える 9) 人と関わる 10) 遊ぶ・学ぶ
II. 子どもの健康障害と看護	1. 健康障害のある子どもの特徴と看護	1) 子どもの健康レベルと健康障害 2) 健康障害のある子どもの体験 3) 子どもの健康障害が家族にもたらす影響 4) 健康障害のある子どもの看護の特徴 5) 子どもの入院環境

大項目	中項目	小項目
	2. さまざまな状況にある子どもの看護	1) 急性状態にある子どもの看護 2) 慢性疾患のある子どもの看護 3) 検査・治療を受ける子どもの看護 4) 手術を受ける子どもの看護 5) 低出生体重児と医療処置を受ける新生児の看護 6) 心身障害のある子どもの看護 7) 終末期にある子どもの看護
	3. 症状がある子どもの看護	1) 呼吸困難のある子どもの看護 2) 発熱のある子どもの看護 3) けいれんのある子どもの看護 4) 発疹のある子どもの看護 5) 脱水状態にある子どもの看護 6) チアノーゼを呈する子どもの看護
	4. 子どもの看護の展開	1) 子どもの特徴をふまえた看護過程

評価方法

試験 80%、演習 10%、課題（自己学習ノート）10%で評価する

教科書

松尾宣武、濱中喜代 編	新体系看護学全書 小児看護学①小児看護概論・小児保健 第4版 (*2年次の小児看護学・概論と同じ教科書を使用する)	メヂカルフレンド社	2012
松尾宣武、濱中喜代 編	新体系看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 第4版 (*2年次の病態学・各論Ⅲと同じ教科書を使用する)	メヂカルフレンド社	2012
山元恵子 監修	写真でわかる小児看護技術 改訂第2版	インターメディカ	2011

この他、オリエンテーションおよび講義中に資料を配付し紹介する

<講義スケジュール>

1	2013. 4.12	金	13:00～14:25	奥野 順子	生活行動を支えるもの 1 ①大きさ重さ
2	4.18	木	9:00～10:25	奥野 順子	子どもの生活行動 1 ①動く ②眠る
3	4.19	金	16:10～17:35	関森みゆき	子どもの生活行動 2 ③見る・聞く・話す ④感じる・考える
4	5. 7	火	9:00～10:25	奥野 順子	子どもの生活行動 3 ⑤食べる
5	5. 7	火	10:35～12:00	日沼 千尋	子どもの生活行動 4 ⑥身だしなみを整える ⑦女らしさ・男らしさ
6	5.14	火	13:00～14:25	奥野 順子	子どもの生活行動 5 ⑧排泄する
7	5.16	木	16:10～17:35	関森みゆき	子どもの生活行動 6 ⑨人と関わる ⑩遊ぶ・学ぶ
8	5.17	金	10:35～12:00	奥野 順子 ^{他*1}	子どもの生活行動 7 子どもの生活援助の実際
9	5.20	月	10:35～12:00	日沼 千尋	生活行動を支えるもの 2 ②恒常性を維持するしくみ
10	5.20	月	13:00～14:25	日沼 千尋	生活行動を支えるもの 3 ②恒常性を維持するしくみ
11	5.21	火	10:35～12:00	関森みゆき	健康障害のある子どもの看護 1
12	5.21	火	13:00～14:25	関森みゆき	健康障害のある子どもの看護 2
13	5.24	金	10:35～12:00	青木 雅子	慢性疾患のある子どもの看護
14	5.27	月	13:00～14:25	櫻田 章子	急性状態にある子どもの看護
15	5.30	木	16:10～17:35	関森みゆき	症状がある子どもの看護 1 ①呼吸困難
16	6. 3	月	14:35～16:00	櫻田 章子	症状がある子どもの看護 2 ②発熱 ③けいれん
17	6. 7	金	9:00～10:25	奥野 順子	症状がある子どもの看護 3 ④発疹 ⑤脱水
18	6.10	月	10:35～12:00	青木 雅子	症状がある子どもの看護 4 ⑥チアノーゼ 検査・治療を受ける子どもの看護 1
19	6.11	火	10:35～12:00	青木 雅子	検査・治療を受ける子どもの看護 2
20	6.13	木	13:00～14:25	櫻田 章子	手術を受ける子どもの看護
21	6.18	火	9:00～10:25	関森みゆき	低出生体重児と医療処置を受ける新生児の看護
22	6.20	木	13:00～14:25	山田咲樹子	心身障害のある子どもの看護
23	6.21	金	16:10～17:35	櫻田 章子	終末期にある子どもの看護
24	6.25	火	10:35～12:00	奥野 順子 ^{他*2}	子どもの看護技術 1
25	6.25	火	13:00～14:25	奥野 順子 ^{他*2}	子どもの看護技術 2
26	6.28	金	9:00～10:25	日沼 千尋	試験
27	7. 1	月	13:00～14:25	奥野 順子	子どもの看護過程 1
28	9. 5	木	13:00～14:25	奥野 順子 ^{他*1}	子どもの看護過程 2
29	9. 5	木	14:35～16:00	奥野 順子 ^{他*1}	子どもの看護過程 3
30	9. 6	金	10:35～12:00	日沼 千尋	まとめ

*1 奥野 順子、日沼 千尋、関森みゆき、青木 雅子、櫻田 章子

*2 奥野 順子、日沼 千尋、関森みゆき、青木 雅子、櫻田 章子、山田咲樹子、楡木 志帆

〔母性看護学・各論〕

科目責任者 小川久貴子

科目担当者 小川久貴子、竹内 道子、原田 通予、
宮内 清子、飯塚 幸恵、中北 充子、
井上 友里、田幡 純子

目的

女性のライフステージを通じた母性看護学が担うヘルスケアについて習得し、現代社会における女性の取り巻く事象を多角的に解釈できる基礎的能力を養う。

到達目標

1. 女性のライフステージにおける母性看護学の役割について述べることができる。
2. 母子(児)の生理と経過について述べるができる。
3. 母子(児)の特性を述べるができる。
4. 母子(児)の生活と基本的ニーズを述べるができる。
5. 母子(児)の看護を述べるができる。
6. 母子(児)の特性をふまえた看護の展開ができる。

大項目	中項目	小項目
I. 女性のライフステージを通じたヘルスケア	1. 母子(児)の看護の特徴	1) 周産期とは 2) 母子(児)、家族看護の役割
	2. 妊娠期	1) 正常妊娠の生理と経過 2) 妊婦の特性 3) 妊婦の生活と基本的ニーズ 4) 妊婦の看護
	3. 分娩期	1) 正常分娩の経過と分娩の3要素 2) 産婦の特性 3) 産婦の生活と基本的ニーズ 4) 産婦の看護
	4. 産褥期	1) 正常産褥の生理と経過 2) 褥婦の特性 3) 褥婦の生活と基本的ニーズ 4) 褥婦の看護
	5. 新生児期	5) 親子・育児支援 1) 正常新生児の生理と経過 2) 新生児の特性 3) 新生児の生活と基本的ニーズ 4) 新生児の看護
II. 母子(児)の特性をふまえた看護の展開	1. 看護過程と看護実践の基礎	看護過程・看護実践に必要とされる基礎的知識を身につけながら母子(児)の看護過程を用いて看護を展開する。

評価方法

出席状況、試験結果にて評価を行う

教科書

森恵美 _他 編著	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論	医学書院	2012
森恵美 _他 編著	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論	医学書院	2012

＜講義スケジュール＞

1	2013. 4.11	木	13:00～14:25	竹内 道子	母子(児)の看護
2	4.11	木	14:35～16:00	竹内 道子	正常妊娠の生理と経過
3	4.15	月	13:00～14:25	竹内 道子	妊婦の特性
4	4.15	月	14:35～16:00	竹内 道子	妊婦の生活と基本的ニーズ
5	4.18	木	13:00～14:25	井上 友里	妊婦の看護
6	4.18	木	14:35～16:00	井上 友里	妊婦の看護
7	4.24	水	9:00～10:25	飯塚 幸恵	正常分娩の経過と分娩の3要素
8	5. 9	木	13:00～14:25	飯塚 幸恵	産婦の特性
9	5. 9	木	14:35～16:00	飯塚 幸恵	産婦の生活と基本的ニーズ
10	5.10	金	13:00～14:25	飯塚 幸恵	産婦の看護
11	5.10	金	14:35～16:00	飯塚 幸恵	産婦の看護
12	5.13	月	9:00～10:25	中北 充子	正常産褥の生理と経過
13	5.13	月	10:35～12:00	中北 充子	褥婦の特性
14	5.15	水	16:10～17:35	中北 充子	褥婦の生活と基本的ニーズ
15	5.16	木	14:35～16:00	宮内 清子	褥婦の看護
16	5.24	金	14:35～16:00	宮内 清子	褥婦の看護
17	5.24	金	16:10～17:35	宮内 清子	親子・育児支援
18	5.27	月	9:00～10:25	原田 通予	正常新生児の生理と経過
19	5.30	木	13:00～14:25	原田 通予	新生児の生活と基本的ニーズ
20	5.30	木	14:35～16:00	原田 通予	新生児の看護
21	6. 4	火	9:00～10:25	小川久貴子 ^{他*}	看護過程の実践
22	6. 4	火	10:35～12:00		看護過程の実践
23	6. 7	金	13:00～14:25		看護過程の実践
24	6. 7	金	14:35～16:00		看護過程の実践
25	6.11	火	13:00～14:25		看護過程の実践
26	6.11	火	14:35～16:00		看護過程の実践
27	6.20	木	14:35～16:00		看護過程の実践
28	6.20	木	16:10～17:35		看護過程の実践
29	6.26	水	16:10～17:35		看護過程の実践
30	6.28	金	10:35～12:00		小川 久貴子

*小川久貴子、竹内 道子、原田 通予、宮内 清子、飯塚 幸恵、井上 友里、田幡 純子

〔地域看護学・概論〕

科目責任者 柳 修平

科目担当者 柳 修平、伊藤 景一、中田 晴美、
服部真理子、犬飼かおり、遠藤 直子

目的

地域看護学の目的および意義を踏まえ、地域看護学を構成する理念、法律、ヘルスケアシステムの概要を学び、地域看護学についての概観を理解する。

到達目標

1. 地域看護学の目的と意義について説明することができる。
2. 地域看護活動の成り立ちについて説明することができる。
3. 地域看護学を構成する理念について説明することができる。
4. 地域看護学に関わる法的基盤について説明することができる。
5. 地域看護活動において展開されているヘルスケアシステムの実際と求められる看護職の役割について述べるることができる。

大項目	中項目	小項目
I. 地域看護学総論	1. 地域看護の目的と意義・役割	1) 地域看護の概念 2) 地域看護の機能と役割 3) 地域看護の構成分野と活動の場
	2. 地域看護の歴史と変遷	1) 諸外国における地域看護活動のはじまり 2) 日本における保健師活動のはじまり 3) 戦後復興と保健所業務の転換期 4) 新しい地域保健活動の展開の模索
	3. 衛生行政と地域看護活動	1) 地域看護活動の主要な法的基盤 2) 保健師に求められる資質 3) 多様化する地域看護活動の展開様式
	4. わが国のヘルスケアシステムと地域看護活動	1) わが国のヘルスケアシステムの現状 2) わが国のヘルスケアシステムにおける看護職の役割
	5. 地域看護をめぐる理念	1) 健康のパラダイムシフト 2) 国際保健協力活動 3) プライマリーヘルスケア 4) セルフケア 5) ノーマライゼーション 6) アドボカシー 7) 健康課題への個人の対処行動

大項目	中項目	小項目
	6. ヘルスプロモーション	1) ヘルスプロモーションの理念 2) ヘルスプロモーションのモデル 3) ヘルスプロモーションの活動
	7. 地域保健管理と保健師活動	1) 地域保健管理の理念 2) 地域保健管理の実際 3) 地域保健管理におけるリーダーシップ 4) 保健師現任教育と人材育成および体制整備

評価方法

試験結果にて評価を行う

教科書

国民衛生の動向 2012/2013	厚生統計協会	2012
新版 保健師業務要覧 第3版	日本看護協会出版会	2013

参考図書

宮崎美佐子 ^他	最新公衆衛生看護学 2013年版 (総論・各論1・各論2)	日本看護協会出版会	2013
	最新保健学講座 (全7巻+別巻)	メヂカルフレンド社	2011
杉本正子、眞船拓子	第5版 在宅看護論 -実践をことばに-	ヌーヴェルヒロカワ	2008
奥山則子 ^他	標準保健師講座1 地域看護学概論	医学書院	2011
中村裕美子 ^他	標準保健師講座2 地域看護技術	医学書院	2009
中谷芳美 ^他	標準保健師講座3 対象別地域看護活動	医学書院	2008
荒賀直子、後閑容子	公衆衛生看護学. Jp 第3版 Public Health Nursing in Japan	インターメディカル	2011
柳川 洋、中村好一	公衆衛生マニュアル 2012	南山堂	2012

<講義スケジュール>

1	2013. 4.15	月	16:10～17:35	柳 修平	地域看護の目的と意義・役割
2	4.19	金	14:35～16:00	中田 晴美	衛生行政と地域看護活動
3	4.22	月	14:35～16:00	遠藤 直子	地域保健管理と保健師活動
4	4.23	火	13:00～14:25	伊藤 景一	わが国のヘルスケアシステムと地域看護活動
5	4.24	水	13:00～14:25	服部真理子	地域看護の歴史と変遷
6	4.26	金	14:35～16:00	犬飼かおり	ヘルスプロモーション
7	4.26	金	16:10～17:35	柳 修平	地域看護をめぐる理念
8	5. 8	水	9:00～10:25	柳 修平	試験

〔地域看護学・各論〕

科目責任者 伊藤 景一
 科目担当者 伊藤 景一、柳 修平、中田 晴美、
 服部真理子、犬飼かおり、遠藤 直子、
 清水 信輔、池戸 啓子

目的

地域看護学を構成する行政看護、産業保健看護、学校保健看護などの各領域における看護活動の概要、さらには地域看護活動の実際において用いる地域看護技術について講義および演習形式で学び、地域看護活動の実際を理解する。

到達目標

1. 地域看護活動の展開方法および技術について学び、効果的な支援方法について説明することができる。
2. 地域保健管理の構成要素と実際の保健師活動について説明することができる。
3. 地域看護活動に関連する法的基盤とその活用、社会資源および組織、機能について説明することができる。
4. ライフサイクルと特定の健康課題に対応した地域看護活動について説明することができる。
5. 生活者を対象とした地域看護の様々な領域（行政看護、産業保健看護、学校保健看護など）における看護活動の概要について説明することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 地域看護活動の展開方法と技術	1. 地域看護における技術と保健師活動の実際①	1) 地域看護活動における技術 2) 保健指導に関する理論 3) 保健指導の目的・機能 4) 健康相談における保健指導
	2. 地域看護における技術と保健師活動の実際②	1) 健康診査における保健指導 2) 家庭訪問における保健指導と援助の実際
	3. グループ組織活動	1) グループ組織活動とは 2) グループ組織活動の変遷 3) グループ組織活動の条件 4) グループ組織活動の発展的運営のための保健師活動 5) 地域づくりとグループ組織活動
	4. コミュニティーヘルスアセスメント①	1) コミュニティーヘルスアセスメントの枠組み 2) コミュニティー・アズ・パートナーモデル
	5. コミュニティーヘルスアセスメント②	1) コミュニティーのアセスメント 2) コミュニティーの診断と計画 3) コミュニティーでの介入
	6. コミュニティーヘルスアセスメント③	1) コミュニティーヘルスアセスメントの実際
II. 行政看護論	1. 母子保健法と地域看護活動①	1) 日本の母子保健の特徴と歴史 2) 主な母子保健活動
	2. 母子保健法と地域看護活動②	1) 母子保健活動の課題

大項目	中項目	小項目	
	3. 精神保健と地域看護活動	1) 地域精神保健に関する法的基盤 2) 地域精神保健対策と保健師活動	
	4. 感染症をめぐる地域看護活動①	1) 感染症対策の動向 2) 感染症保健活動	
	5. 感染症をめぐる地域看護活動②	1) 結核対策と保健活動 2) 性感染症・エイズ対策と保健活動	
	6. 難病および障害者の地域看護活動	1) 難病・障害の定義 2) 難病対策と難病患者の在宅看護 3) 障害者対策と障害者の在宅看護	
	7. 障害者自立支援法と地域看護活動	1) 障害者自立支援法の法的基盤 2) 障害者自立支援法と保健師活動	
	8. 発達障害者支援法と地域看護活動	1) 発達障害者支援法の法的基盤 2) 発達障害者支援のための保健師活動	
	9. 高齢者医療確保法と地域看護活動	1) 老人保健の法的基盤 2) 老人保健と保健師活動	
	10. 介護保険法と地域看護活動	1) 介護保険法の法的基盤 2) 介護予防対策と保健師活動	
	11. 地域における保健師活動の実際①	1) 保健所における保健師活動 2) 保健センターにおける保健師活動	
	12. 地域における保健師活動の実際②	1) 保健師活動と地域保健行政	
	13. 災害時における地域看護活動の実際	1) 災害時の保健師活動 2) 災害復興期における保健師活動	
	Ⅲ. 産業保健看護論	1. 労働衛生管理と OHN 活動①	1) 健康保持増進活動 2) 健康診断・疾病予防管理活動 3) 健康教育・健康相談・保健指導 4) メンタルヘルスサポート
		2. 労働衛生管理と OHN 活動②	1) 労働衛生と OHN 活動の実際
Ⅳ. 学校保健看護論	1. 養護教諭の役割と活動	1) 養護教諭とは 2) 養護教諭の役割と期待 3) 養護教諭の活動の実際	

評価方法

試験結果、課題レポート、出席状況により総合的に評価を行う

教科書

国民衛生の動向 2012/2013	厚生統計協会	2012
新版 保健師業務要覧 第3版	日本看護協会出版会	2013

参考図書

宮崎美佐子 _他	最新公衆衛生看護学 2013年版 (総論・各論1・各論2)	日本看護協会出版会	2013
	第3版最新保健学講座 (全7巻+別巻)	メヂカルフレンド社	2011
杉本正子、眞船拓子	第5版 在宅看護論 -実践をことばに-	ヌーヴェルヒロカワ	2008
奥山則子 _他	標準保健師講座1 地域看護学概論	医学書院	2011
中村裕美子 _他	標準保健師講座2 地域看護技術	医学書院	2009
中谷芳美 _他	標準保健師講座3 対象別地域看護活動	医学書院	2008
荒賀直子 _他 編	公衆衛生看護学.Jp 第3版	インターメディカル	2011
	Public Health Nursing in Japan		
柳川 洋、中村好一	公衆衛生マニュアル 2012	南山堂	2012
高野 陽、柳川 洋 _他	改訂7版 母子保健マニュアル	南山堂	2010
和田 攻	改訂5版 産業保健マニュアル	南山堂	2006
	労働衛生のしおり (平成24年度版)	中央労働災害防止協会	2012
河野啓子	産業保健・産業看護論	日本看護協会出版会	2008

<講義スケジュール>

1	2013. 5.14	火	14:35～16:00	中田 晴美	地域看護における技術と保健師活動の実際①
2	5.14	火	16:10～17:35	中田 晴美	地域看護における技術と保健師活動の実際②
3	5.16	木	13:00～14:25	清水 信輔	グループ組織活動
4	5.17	金	13:00～14:25	中田 晴美	コミュニティーヘルスアセスメント①
5	5.17	金	14:35～16:00	中田 晴美	コミュニティーヘルスアセスメント②
6	5.21	火	14:35～16:00	服部真理子	母子保健法と地域看護活動①
7	5.23	木	13:00～14:25	清水 信輔	母子保健法と地域看護活動②
8	5.23	木	14:35～16:00	服部真理子	高齢者医療確保法と地域看護活動
9	5.28	火	13:00～14:25	柳 修平	感染症をめぐる地域看護活動①
10	5.29	水	16:10～17:35	犬飼かおり	感染症をめぐる地域看護活動②
11	6. 4	火	13:00～14:25	伊藤 景一	障害者自立支援法と地域看護活動
12	6. 4	火	14:35～16:00	遠藤 直子	精神保健と地域看護活動
13	6.11	火	9:00～10:25	犬飼かおり	発達障害者支援法と地域看護活動
14	6.11	火	16:10～17:35	伊藤 景一	難病および障害者の地域看護活動
15	6.12	水	16:10～17:35	中田 晴美	介護保険法と地域看護活動
16	6.14	金	13:00～14:25	遠藤 直子	養護教諭の役割と活動
17	6.18	火	14:35～16:00	柳 修平	労働衛生管理とOHN活動
18	6.18	火	16:10～17:35	竹本 知恵	労働衛生管理とOHN活動の実際
19	6.21	金	13:00～14:25	池戸 啓子	地域における保健師活動の実際①
20	6.21	金	14:35～16:00	池戸 啓子	地域における保健師活動の実際②
21	6.25	火	14:35～16:00	柳 修平	災害時における地域看護活動
22	6.25	火	16:10～17:35	中田 晴美	コミュニティーヘルスアセスメント③
23	7. 3	水	10:35～12:00	伊藤 景一	試験

〔精神看護学・各論〕

科目責任者 田中美恵子

科目担当者 田中美恵子、小山 達也、嵐 弘美、
異儀田はづき、飯塚あつ子

目標

精神状態に影響を受けた個人の生活行動および人間関係に焦点を置き、精神の健康の保持増進、精神の健康障害の予防、および一旦精神障害を来した人々に対する看護援助について学び、さらに広く看護全般に活用しうる精神看護学の知識と技術を習得する。

到達目標

1. 精神状態のアセスメントならびに対人関係とコミュニケーションの技術について理解し、看護への活用について説明できる。
2. 薬物療法、精神療法・集団療法、家族援助、リハビリテーション、訪問看護について理解し、看護への活用について説明できる。
3. 統合失調症、気分障害、アルコール依存症、パーソナリティ障害・摂食障害、不安障害、発達障害、身体合併症の特徴と看護の内容について説明できる。
4. 精神科病院体験演習を通じて、精神科病院の概要を説明でき、患者とのコミュニケーションを実践することができる。
5. セルフヘルプグループや当事者活動について、当事者の語りを聞くことで、看護に対象者の視点を取り入れることの重要性を理解できる。

大項目	中項目	小項目
I. 援助技術	1. 精神状態のアセスメント	1) 精神状態のアセスメントと看護過程 2) 精神状態のアセスメントの構成要素 3) 精神状態とセルフケア
	2. 対人関係とコミュニケーション	1) 患者－看護師関係 2) 治療的コミュニケーション 3) コミュニケーションの再構成
II. 援助方法	1. 薬物療法と看護	1) 薬物療法の概観 2) 薬物療法の作用と副作用 3) 薬物療法と看護
	2. 精神療法・集団療法と看護	1) 精神療法・集団療法の概観 2) 来談者中心療法 3) 精神分析療法 4) 精神療法・集団療法と看護
	3. 家族への援助	1) 精神障害者の家族の現状 2) 家族心理教育 3) 看護における援助方法の実際
	4. リハビリテーション	1) 精神科リハビリテーションとは 2) リハビリテーション活動の実際 3) リハビリテーションと看護

大項目	中項目	小項目
Ⅲ. 対象と看護	5. 訪問看護	1) 訪問看護の目的と機能 2) 訪問看護の実際
	1. 統合失調症患者への看護（急性期）	1) 統合失調症急性期患者の特徴 2) 看護の特徴と実際
	2. 統合失調症患者への看護（慢性期）	1) 統合失調症慢性期患者の特徴 2) 看護の特徴と実際
	3. 気分障害患者への看護	1) 気分障害患者の特徴 2) 看護の特徴と実際
	4. アルコール依存症・薬物依存症患者への看護	1) アルコール依存症患者の特徴 2) 薬物依存症患者の特徴 3) 看護の特徴と実際
	5. パーソナリティ障害・摂食障害患者への看護	1) パーソナリティ障害・摂食障害患者の特徴 2) 看護の特徴と実際
	6. 不安障害患者への看護	1) 不安障害患者の特徴 2) 看護の特徴と実際
	7. 発達障害への看護	1) 発達障害の特徴 2) 看護の特徴と実際
Ⅳ. 体験演習	1. 精神科病院体験演習	1) 精神科病院の概要の理解 2) 患者との関わりの実際
Ⅴ. 対象者の視点	1. セルフヘルプグループ	1) セルフヘルプグループとは
	2. 当事者活動	2) セルフヘルプグループ活動の実際 3) 当事者体験 4) 当事者の主張

評価方法

出席状況、学習態度、見学実習レポート、課題提出等により総合的に評価する

教科書

田中美恵子 編著 「精神看護学」 学生・患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 2001

参考図書

講義中に適宜紹介する

<講義スケジュール>

1	2013. 4.10	水	13:00~14:25	異儀田はづき	精神状態のアセスメント1
2	4.10	水	14:35~16:00	異儀田はづき	精神状態のアセスメント2
3	4.11	木	9:00~10:25	異儀田・小山	対人関係とコミュニケーション1
4	4.11	木	10:35~12:00	異儀田・小山	対人関係とコミュニケーション2
5	4.12	金	9:00~10:25	嵐 弘美	精神療法・集団療法と看護
6	4.12	金	10:35~12:00	小山 達也	薬物療法と看護
7	4.15	月	9:00~10:25	小山 達也	家族への援助
8	4.16	火	9:00~10:25	異儀田はづき	リハビリテーション
9	4.17	水	9:00~10:25	田中美恵子	訪問看護
10	4.17	水	14:35~16:00	飯塚あつ子	統合失調症(急性期)患者への看護
11	4.22	月	9:00~10:25	飯塚あつ子	統合失調症(慢性期)患者への看護
12	4.25	木	13:00~14:25	小山 達也	気分障害患者への看護
13	5. 8	水	16:10~17:35	嵐 弘美	アルコール依存・薬物依存患者への看護
14	5.15	水	9:00~10:25	飯塚あつ子	パーソナリティ障害・摂食障害患者への看護
15	5.29	水	9:00~10:25	嵐 弘美	不安障害への看護
16	6.12	水	9:00~10:25	小山 達也	発達障害への看護
17	6.19	水	9:00~10:25	嵐 弘美	身体合併症患者への看護
18	6.26	水	9:00~10:25	小山 達也	セルフヘルプグループ
19	7. 5	金	9:00~10:25	田中美恵子 _{他*}	精神看護学 病院見学実習
20	7. 5	金	10:35~12:00	田中美恵子 _{他*}	精神看護学 病院見学実習
21	7. 5	金	13:00~14:25	田中美恵子 _{他*}	精神看護学 病院見学実習
22	7. 5	金	14:35~16:00	田中美恵子 _{他*}	精神看護学 病院見学実習
23	7. 9	火	13:00~14:25	田中美恵子	対象者の視点:当事者活動

*田中美恵子、小山 達也、嵐 弘美、異儀田はづき、飯塚あつ子

〔在宅看護論〕

科目責任者 伊藤 景一
 科目担当者 伊藤 景一、田中美恵子、日沼 千尋、
 服部真理子、坂井 志麻、犬飼かおり、
 秋山 正子

目的

在宅看護を構成する概念、理論的基盤と在宅看護実践の各専門領域への発展、および在宅ケアの実際において用いる看護技術について学び、在宅ケア看護活動の実際を理解する。

到達目標

1. 在宅看護の対象者と生活の場の特徴を説明することができる。
2. 在宅ケアシステムの概要を説明することができる。
3. 在宅ケア関連法規の概要とケアマネジメント内容を説明することができる。
4. 訪問看護ステーションにおける活動の実際を説明することができる。
5. 在宅における生活支援看護技術の内容を説明することができる。
6. 在宅療養者に対する状態別（精神・子ども・難病・認知症・医療管理）看護の特徴を説明することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 在宅看護の特徴	1. 在宅看護の対象者と生活の場	1) 疾病・障害を持つ人と家族 2) 生活様式と価値観 3) 家族介護者の健康と支援 4) 多様な生活の場
	2. 在宅ケア看護の概念と在宅ケアシステム	1) 在宅ケアにおける在宅看護の歴史 2) 在宅ケアチームと看護の役割 3) 在宅ケアシステムを形成する過程と要件
	3. 家族看護の概念と理論	1) 家族看護学の歴史と定義 2) 家族看護学に基づくアセスメントと援助方法 3) 家族看護における看護職の役割
	4. 介護保険法と在宅看護及び在宅ケアマネジメント	1) 介護保険制度の仕組みと高齢者介護 2) 介護保険制度の問題点と改善の動向 3) 在宅ケアマネジメントの仕組み・プロセス・質評価
	5. 退院支援	1) 退院支援のプロセスと自己決定支援 2) 退院支援に関わる職種と協働 3) 医療機関・施設・地域の連携システム
	6. 在宅の安全マネジメント	1) 在宅の感染防止ガイドライン 2) 在宅生活の転倒防止・閉じこもり防止
II. 訪問看護ステーションの理解	1. 訪問看護ステーションの歴史と機能	1) 訪問看護ステーションの歴史 2) 訪問看護ステーションの機能 3) 訪問看護ステーションの法的枠組み 4) 訪問看護サービスの提供

在宅看護論

大項目	中項目	小項目
Ⅲ. 在宅における生活支援看護技術	1. 在宅生活支援技術と看護過程①	1) 食・嚥下・栄養 2) 排泄・失禁 3) 清潔 4) 移動
	2. 在宅生活支援技術と看護過程②	1) 在宅看護過程の特徴 2) 在宅看護過程の方法
Ⅳ. 在宅療養者に対する状態別看護	1. 精神障害者および認知症者に対する訪問看護活動	1) 在宅ケアを利用する精神障害者のケアニーズの特徴 2) コミュニケーション技術 3) 症状アセスメント 4) 社会資源の活用
	2. 子どもの療養者に対する訪問看護活動	1) 在宅ケアを利用する子どもと家族のケアニーズの特徴 2) 子どもと家族の発達アセスメント 3) 社会資源の活用
	3. 神経難病患者に対する訪問看護活動	1) 在宅神経難病患者のケアニーズの特徴 2) 急性憎悪の早期発見と対応 3) 社会資源の活用
	4. 在宅ホスピス緩和ケア	1) 地域・在宅における緩和ケアの実際 2) 症状マネジメント 3) 看取りのケアと遺族ケア
	5. 医療管理が必要な在宅療養者に対する看護	1) 薬物療法 2) 在宅酸素療法 3) 在宅人工呼吸器療法 4) 膀胱留置カテーテル療法 5) 胃ろう・経管栄養療法 6) 在宅中心静脈栄養療法 7) 褥創マネジメント

評価方法

試験結果、課題レポート、出席状況により総合的に評価を行う

教科書

特に指定しない

参考図書

杉本正子	第5版在宅看護論	ヌーヴェルヒロカワ	2008
木下由美子	新版在宅看護論	医歯薬出版	2009

<講義スケジュール>

1	2013. 4.16	火	14:35～16:00	伊藤 景一	在宅看護の対象者と生活の場の特徴
2	4.17	水	13:00～14:25	伊藤 景一	在宅ケアの概念・在宅ケアシステム
3	4.22	月	16:10～17:35	犬飼かおり	家族看護の概念と理論
4	4.25	木	9:00～10:25	服部真理子	介護保険法とケアマネジメント①
5	4.25	木	10:35～12:00	服部真理子	介護保険法とケアマネジメント②
6	5. 9	木	16:10～17:35	坂井 志麻	退院支援のプロセスと地域連携システム
7	5.21	火	9:00～10:25	伊藤 景一	在宅生活を支援する技術と看護過程①
8	5.23	木	16:10～17:35	伊藤 景一	神経難病患者への訪問看護活動と在宅ケアシステム
9	5.28	火	14:35～16:00	坂井 志麻	在宅生活を支援する技術と看護過程②
10	5.28	火	16:10～17:35	日沼 千尋	小児疾患患者への訪問看護活動と在宅ケアシステム
11	6. 6	木	13:00～14:25	田中美恵子	精神疾患患者への訪問看護活動と在宅ケアシステム
12	6. 6	木	14:35～16:00	伊藤 景一	在宅医療管理と看護方法
13	6.21	金	9:00～10:25	秋山 正子	訪問看護ステーションの活動の実際と在宅ホスピス緩和ケア①
14	6.21	金	10:35～12:00	秋山 正子	訪問看護ステーションの活動の実際と在宅ホスピス緩和ケア②
15	7. 4	木	13:00～14:25	伊藤 景一	試験

〔成人看護学実習Ⅱ〕

科目責任者 下平 唯子

科目担当者 下平 唯子、金子真理子、近藤 暁子、
原 三紀子、落合 亮太、益田美津美、
原 美鈴、三浦美奈子、小林 礼実、
鈴木香緒理

目的 対象者の固有の健康状況から援助ニーズを導き、かかわる自己のあり方を問うことを通して、
対象者への看護実践能力を養う。

到達目標

1. 学内演習において基本的な看護技術を実施し、安全安楽の視点から振り返ることができる
2. 身体的・心理的・社会的視点から主体的に情報を収集し、看護理論を用いてアセスメントすることができる
3. 全体像を把握したうえで顕在的・潜在的な看護問題を抽出し、優先順位を判断、記述することができる
4. 看護の方向性を踏まえ、看護目標を設定し、看護計画を立案することができる
5. 立案した看護計画に基づき、安全・安楽に配慮しながら対象者の状態を踏まえた看護援助を実施することができる
6. 看護計画を看護目標に照らして評価し、必要に応じて計画を追加・修正することができる
7. 看護者として倫理に基づいた適切な判断や行動について考え、述べることができる
8. 保健医療チームの一員として、各職種の役割を知り、協働の必要性について述べるができる
9. 看護学生としての自己のありようを振り返り、今後の課題を見出し、述べるができる

大項目	中項目	小項目
I. 健康状況から援助ニーズを導き、自己のあり方を問うことを通した看護実践能力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を全人的に理解できる 2. 対象者の健康状態及び援助ニーズをアセスメントし、必要な看護を導き出せる 3. 根拠に基づき看護を実践できる 4. 対象者との援助関係を発展させる 5. 援助する者として倫理に基づいた適切な判断や行動について考える 6. 保健医療チームの一員および援助者としての役割、態度について理解できる 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 身体、精神、社会的側面からの必要な情報収集 2) 対象者の全人的理解 1) 対象者の健康状態及びニーズのアセスメント 2) 個別性、予測性をふまえた具体策の立案 1) 根拠に基づいた主体的看護実践 2) 安全・安楽に配慮した援助 3) 実施した看護実践および自己の課題の評価 1) 自己のありようの省察 2) 対象者との援助関係の発展 1) 倫理綱領の理解 1) 保健医療チームの一員としての役割、態度 2) 合同カンファレンス

実習方法

少人数のグループに分かれ、1人以上の対象者を受け持ち、指導者の下に看護を実践する

成績評価の方法

出席日数、看護実践の成果、課題提出などにより総合的に評価する

教科書・参考図書

特に指定せず、随時必要な資料を配布する。

<講義スケジュール>

	2013. 9. 2(月) 9:00～10:25 9. 4(水) 9:00～10:25	合同オリエンテーション オリエンテーション
A グループ	2013. 9. 9(月)～10. 4(金)	病棟実習
B グループ	9. 9(月)～10. 4(金)	病棟実習
C グループ	10.28(月)～11.22(金)	病棟実習
D グループ	10.28(月)～11.22(金)	病棟実習

〔老年看護学実習〕

科目責任者 水野 敏子
 科目担当者 水野 敏子、小山千加代、坂井 志麻、
 原沢のぞみ、成澤 明、桑原 良子

目的

急性期に対応した医療機関に入院している高齢者と、その家族の看護に必要な基礎的実践能力を養うとともに、自己の老年看護観を深める。

到達目標

1. 加齢に伴う変化、健康レベル、日常生活及び本人をとりまく環境などから、高齢者を統合的に理解することができる。
2. 高齢者が望んでいる状態を理解し、高齢者の“その人らしさ”や“その人の持てる力”を生かした援助方法を考えることができる。
3. 安全、安楽、自立の視点から、状況に即した看護を予測的に実施することができる。
4. 行った実践を事実に基づいて評価し、より個別的な看護を追及することができる。
5. 急性期に対応した医療機関に入院している高齢者の継続ケアを円滑に推進するために、人的・社会的資源などをもとにケアを包括的に考えることができる。
6. 高齢者と家族の意思、価値観及び権利を尊重し、看護者としての倫理的責務を遂行することができる。
7. 専門職をめざす者として、自己を客観的に評価し、自己成長に必要な課題に対して主体的に努力することができる。
8. 医療チームの一員としての自覚を持ち、信頼関係を築くように努力することができる。
9. 実習体験をもとに、老年看護について自己の考えを深めることができる。

大項目	中項目	小項目
I. 高齢者の統合的理解	1. 加齢に伴う変化、健康レベル、日常生活および本人を取りまく環境などから、高齢者を統合的に理解することができる。	1) 加齢に伴う身体的変化、病態および障害が、日常生活動作にどのように影響しているかを具体的、個別的に理解する。 2) 高齢者が直面している発達課題、心理状態および家庭や地域社会での役割を理解する。 3) 病態や治療侵襲、老年症候群などの知識をもとに、高齢者の生命維持や生活過程を阻害する要因を関連づけて理解する。
II. 高齢者への看護実践	1. 高齢者が望んでいる状態を理解し、高齢者の“その人らしさ”や“その人の持てる力”を生かした援助方法を考えることができる。	1) 高齢者の状態、治療方針、看護方針および高齢者本人や家族の希望を理解し、高齢者と家族の QOL を保証しうる看護目標を立てる。 2) 高齢者個人の脆弱な部分を補うのみでなく、高齢者がその人らしくいられる、その人にふさわしい方法や、健全な部分（もてる力）を生かした実践を提供する。

大項目	中項目	小項目
<p>III. 看護師としての責任の自覚</p>	<p>2. 安全、安楽、自立の視点から、状況に即した看護を予測的に実施することができる。</p>	<p>1) 高齢者の自立を促す方法を考える。 2) 高齢者の危険性の高い状況を予測し安全を考慮した対応をする。 3) 廃用性症候群、病態および治療侵襲などから生じる合併症等の予防に努める。 4) 高齢者の自立、安楽および休息の視点から生活リズムを調整する。</p>
	<p>3. 行った実践を事実にもとづいて評価し、より個別的な看護を追求することができる。</p>	<p>1) 看護実践によって得られた情報にもとづいて、看護目標の達成度（目標は達成されたのか、されなかったのか）とその要因を客観的・全体的に分析する。 2) 高齢者のあるべき望ましい状態と現実とのギャップであるニーズ（看護問題）に対して、より個別的に対応していくための看護の方向性を検討し、次の看護実践に活かす。</p>
	<p>4. 急性期に対応した医療機関に入院している高齢者の継続ケアを円滑に推進するために、人的・社会的資源などをもとに包括的に考えることができる。</p>	<p>1) 高齢者の入院前の生活や役割などから、入院に伴う影響を統合的に理解する。 2) 入院時より退院後の生活について考え、高齢者や家族に必要とされる援助について考える。 3) ケアが継続されるためのサービスや制度などについて考える。</p>
	<p>5. 高齢者と家族の意志、価値観および権利を尊重し、看護者としての倫理的責務を遂行することができる。</p>	<p>1) 高齢者や家族の意志を確認し、実施する看護援助について必要な情報を説明する。 2) 高齢者や家族のプライバシーを守秘し、責任をもって記録物の管理を行う。 3) 自身の行った看護とその結果を、事実にもとづいて報告する。 4) 代弁者（advocator）としての看護者の役割を理解する。</p>
	<p>1. 専門職をめざす者として、自己を客観的に評価し、自己成長に必要な課題に対して主体的に努力することができる。 2. 医療チームの一員としての自覚を持ち、信頼関係を築くよう努力することができる。</p>	<p>1) 実習を通して客観的に自己を振り返り、不足している知識や態度を追加・修正していく努力をする。 2) カンファレンスなどを通して、自己の実践や体験について分かりやすく説明する。 3) カンファレンスを主体的・協働的に運営する。 1) 計画したケアについて指導看護師に的確に説明し調整を受ける。 2) 自分の行ったことについて簡潔明瞭にスタッフに伝える。</p>
<p>IV. 老年看護観の追求</p>	<p>1. 実習体験をもとに、老年看護について自己の考えを深めることができる。</p>	<p>1) 2週間の実習体験をもとにテーマをしばって、老年看護についての自己の考えを、レポートの記載規定に従って記述する。</p>

実習方法

急性期に対応した医療機関に入院している高齢者 1 名を受け持って看護を実践する。詳細は、老年看護学実習の実習要項を参照。

成績評価の方法

実習記録や実習内容、レポート、出席状況から、実習目標の達成度を総合的に評価する。

教科書

特に指定せず、随時必要な参考図書を提示する。

老年看護学実習

<講義スケジュール>

	2013. 9. 2(月) 9:00～10:25 9. 3(火)13:00～17:35	合同オリエンテーション オリエンテーション
--	------------------------------------------------	--------------------------

Dグループ	2013. 9. 9(月)～ 9.20(金)	病棟実習
Cグループ	9.24(火)～10. 4(金)	病棟実習
Bグループ	10. 7(月)～10.18(金)	病棟実習
Aグループ	11.25(月)～12. 6(金)	病棟実習

〔小児看護学実習〕

科目責任者 日沼 千尋
 科目担当者 日沼 千尋、関森みゆき、奥野 順子、
 青木 雅子、櫻田 章子

目的

健康障害のある子どもを理解し、看護を実践する基礎的能力を養う。

到達目標

1. 健康障害のある子どもを理解するために必要な情報を説明し、収集することができる。
2. 健康障害のある子どもについて、成長・発達や生活、病態など既習の知識を活用して看護の視点でアセスメントし、説明することができる。
3. アセスメントに基づき、看護上の問題を抽出し、述べることができる。
4. 抽出した看護上の問題の優先度を述べることができる。
5. 期待される結果を看護目標に設定し、述べることができる。
6. 看護目標を達成するための子どもに適した具体策を立案し、述べることができる。
7. 基本的な小児看護技術を用いて、子どもの状態に合わせた看護を実践することができる。
8. 子どもや家族の反応を基に看護の過程を評価し、述べることができる。
9. 子どもと家族の意思や権利を尊重し、実習することができる。
10. 看護の学習者として、責任ある誠実な態度で実習することができる。
11. 自己の能力を客観的に判断し課題を明確にして、適宜適切に指導者に相談することができる。
12. 保健医療チームの一員としての看護の役割を考え、述べるすることができる。

大項目	中項目	小項目
I. 健康障害のある子どもの看護の実践	1. 健康障害のある子どもの理解	1) 子どもの発達段階 2) 入院前の子どもの生活行動 3) 子どもの健康レベル（急性、慢性状況、手術・救急処置、心身障害、終末期など） 4) 子どもの生活をとるまく環境 5) 入院・治療による子どもの生活行動への影響
	2. 健康障害のある子どもの看護の理解	1) 看護問題の抽出 2) 優先度の決定 3) 看護目標の設定 4) 子どもに適した具体策の立案
	3. 健康障害のある子どもの状態に適した看護の実践	1) 子どもに必要な基本的看護技術の習得 2) 子どもの健康状態に適した援助 3) 子どもの生活に合わせた援助 4) 子どもの安全に配慮した援助 5) 子どもと家族の意思や権利の尊重
	4. 自己の能力を発展させる取り組み	1) 看護の学習者としての行動 2) 自己能力の判断と他者の活用 3) 保健医療チームの看護の役割の理解

実習方法

入院している子どもを受け持って実習する（小児看護学実習要項を参照のこと）

実習評価

目標の達成状況（記録物も含む）から評価する

<講義スケジュール>

	2013. 9. 2(月) 9:00～10:25 9. 2(月)10:35～12:00	合同オリエンテーション オリエンテーション
Cグループ	2013. 9. 9 (月) ～ 9.20 (金)	病棟実習
Aグループ	10. 7 (月) ～10.18 (金)	病棟実習
Bグループ	10.28 (月) ～11. 8 (金)	病棟実習
Dグループ	11.25 (月) ～12. 6 (金)	病棟実習

〔母性看護学実習〕

科目責任者 小川久貴子

科目担当者 小川久貴子、竹内 道子、原田 通予、宮内 清子、
飯塚 幸恵、井上 友里、田幡 純子

目的

母子(児)を理解して看護を実践する基礎的能力を養い、女性のライフステージを通じた健康支援における母性看護の役割を理解する。

到達目標

1. 妊婦の特性と提供されている看護について述べることができる。
2. 産婦の特性と提供されている看護について述べることができる。
3. 褥婦および新生児の身体的、心理的、社会的状況から必要な情報を収集し、述べることができる。
4. 褥婦および新生児の情報について知識を活用してアセスメントし、述べることができる。
5. 褥婦および新生児のアセスメントから特性に応じた看護を考え、述べることができる。
6. 褥婦および新生児に必要な看護を、基本的母性看護技術を用いて実践できる。
7. 母子の特性をふまえ、安全・安楽に配慮して援助できる。
8. 母子の権利・プライバシーを尊重し、倫理的に配慮して援助できる。
9. 保健医療チームの一員として責任ある誠実な態度で実習できる。
10. 母性看護学実習をふまえ、自己の能力を発展させる取り組みができる。
11. 女性のライフステージを通じた健康支援における、母性看護の役割について考え、述べるができる。

大項目	中項目	小項目
I.母性看護の基礎的实践	1. 妊婦の特性や看護の理解と実践	1) 妊婦の身体的、心理的、社会的状況の理解 2) 胎児の健康、発育状況の理解 3) 妊婦および胎児の特性をふまえた看護の理解 4) 妊婦に必要な基本的看護技術の習得 5) 妊婦と家族の価値観、権利を尊重した援助の理解
	2. 産婦の特性や看護の理解と実践	1) 産婦の身体的、心理的、社会的状況の理解 2) 産婦の特性をふまえた看護の理解 3) 産婦に必要な基本的看護技術の理解
	3. 褥婦および新生児の特性や看護の理解と実践	1) 褥婦の身体的、心理的、社会的状況の理解 2) 新生児の生理的变化の理解 3) 褥婦および新生児の特性をふまえた看護の理解 4) 褥婦および新生児に必要な基本的看護技術の習得 5) 褥婦および新生児の看護過程を用いた看護の展開 6) 褥婦および新生児の特性をふまえ、安全・安楽に配慮した援助 7) 褥婦と家族の意思や価値観、権利を尊重した援助 8) 親子関係形成過程を尊重した援助 9) 退院後に健康で快適な生活に適応できる援助

母性看護学実習

大項目	中項目	小項目
Ⅱ.女性のライフステージを通じた健康支援の理解	4. 母性看護における自己の能力を発展させる取り組み	1) 地域における母子(児)とその家族に対するサポートシステムの理解 2) ライフサイクルにおける出産体験の意味の考察 3) 保健医療チームの一員として責任のある誠実な態度
	1. 母性看護の役割と課題における実践的な理解	1) 女性のリプロダクティブヘルス/ライツの視点からの課題 2) 女性の健康支援に対する保健医療者の関わり、看護の役割、他職種との連携 3) 女性のライフステージを通じた健康支援における母性看護の役割

実習方法

産科病棟および外来で実習を行う（母性看護学実習 要項を参照）。

評価方法

実習到達目標の達成、出席と記録物提出の状況、実習態度より総合的に評価を行う。

<講義スケジュール>

	2013. 9. 2(月) 9:00～10:25	合同オリエンテーション
	9. 4(水) 10:25～12:00	オリエンテーション
Dグループ	2013.10. 7(月)～10.18(金)	病棟実習
Aグループ	10.28(月)～11. 8(金)	病棟実習
Bグループ	11.11(月)～11.22(金)	病棟実習
Cグループ	11.25(月)～12. 6(金)	病棟実習

〔地域看護学実習 I〕

科目責任者 伊藤 景一
 科目担当者 伊藤 景一、柳 修平、中田 晴美、服部真理子
 犬飼かおり、遠藤 直子、清水 信輔

目的

地域で健康問題を持ちながら生活する（終末期を含む）個人・家族を対象とし、対象者の健康な生活を実現するために必要な看護活動の実際を体験する。さらに体験を通して個人・家族が属している地域の健康問題と地域ケアシステムを活用した地域看護活動を考究し、地域で活動する看護職の役割と機能について理解を深める。

到達目標

1. 地域で健康問題を持ちながら生活する個人・家族にとっての健康な生活を説明できる。
2. 対象者の健康課題に応じた看護活動の計画・実施・評価の過程を通し、健康な生活を実現するために必要な看護活動を説明できる。
3. 複数の対象者の生活の中から、共通の健康特性や健康課題を見出し、共通する健康特性を持つ集団や地域全体に共通する健康課題を発展的*1にとらえ、とらえた健康課題に対する地域ケアシステムを活用した地域看護活動を説明できる。
4. 地域で活動する看護職と地域看護活動の役割と意義を説明できる。

*1 発展的にとらえるとは、複数の対象者の生活の中から見出した共通する健康特性や健康課題を、集団や地域全体に共通する健康特性や健康問題としてとらえなおすことである。

大項目	中項目	小項目
I. 地域看護活動における基礎的な看護実践能力	1. 地域で健康問題を持ちながら生活する個人・家族にとっての健康な生活の理解	1) 対象者の生活状況、生活者としての思い、生活の場の特性 2) 対象者の健康状態のアセスメント 3) 対象者の健康状況が生活に及ぼす影響 4) 対象者が望む生活を達成するために対象者が持っている強み 5) 対象者の健康課題の抽出
	2. 地域で健康問題を持ちながら生活する個人・家族の健康な生活を実現するために必要な看護活動とケアに関わる社会資源の理解	1) 対象者の健康問題に対する看護の計画 2) 対象者の健康問題に対し現在提供されている看護の必要性とその根拠 3) 既存の知識と技術を活用した対象者に対する看護の実施と評価 4) 対象者の健康な生活を支援する看護職の役割と多職種・関係機関との協働
	3. 共通する健康特性を持つ集団や地域全体に共通する健康課題の把握と地域ケアシステムを活用した地域看護活動の理解	1) 複数の対象者の生活の中から見出す共通の健康特性や健康課題 2) 地域看護の対象となる共通の健康特性を持つ集団および地域全体の健康課題 3) とらえた健康課題の解決に必要な保健・医療・福祉政策・制度

大項目	中項目	小項目
II. 地域看護活動の専門性を発展させる能力	4. 地域で活動する看護職と地域看護活動の意義と役割	1) 地域で活動する看護職の役割と意義、機能 2) 地域看護活動の役割と意義、機能
	1. 地域で活動する看護職と地域看護活動の意義と役割の考察	1) 地域看護活動の意義と役割 2) 地域看護活動における今後の課題の探究

実習方法

実習に向けて、地域看護学教員が独自に作成したワークブックを用いて事前学習を行い、既習の地域看護活動に関する知識を整理する。既習の知識と看護実践を関連づけながら実習施設（訪問看護ステーションおよび高齢者在宅サービスセンターの両方）で実習を行う。

評価方法

事前学習、実習態度、実習目的・到達目標の達成状況（内容、記録類を含む）、出席状況（オリエンテーション・カンファレンス等、学内における学習も含む）等を全て点数化して、総合的に評価する。

<講義スケジュール>

	2013. 9. 2(月) 9:00~10:25 9. 3(火) 9:00~12:00 9. 4(水)13:00~17:35	合同オリエンテーション 地域看護学実習Ⅰ・Ⅱ学内総合オリエンテーション 白十字訪問看護ステーション・高齢者在宅サービスセンターオリエンテーション
Dグループ	2013. 9.24(火)~10. 4(金)	訪問看護ステーション・高齢者在宅サービスセンター実習
Cグループ	10. 7(月)~10.18(金)	訪問看護ステーション・高齢者在宅サービスセンター実習
Aグループ	11.11(月)~11.22(金)	訪問看護ステーション・高齢者在宅サービスセンター実習
Bグループ	11.25(月)~12. 6(金)	訪問看護ステーション・高齢者在宅サービスセンター実習

〔健康教育学〕（選択科目）

科目責任者 中田 晴美

科目担当者 中田 晴美、柳 修平、伊藤 景一、
服部真理子、犬飼かおり、遠藤 直子、
清水 信輔、坂井理映子

目的

健康教育の意義および健康教育に必要な基礎知識を学ぶとともに、効果的な健康教育の方法について、演習を通して理解する。

到達目標

1. 健康教育の意義、基礎理論について説明することができる。
2. 各ライフステージや様々な場における健康教育の方法と実践例について説明することができる。
3. 健康教育を行う際の倫理的配慮について説明することができる。
4. 個別健康教育・健康相談のための知識・技術について説明することができる。
5. 集団への健康教育について企画・実施・評価の一連の過程について展開することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 健康教育学総論	1. 健康教育の意義・理論	1) 健康教育の意義 2) 健康教育の基礎理論
	2. 健康教育の方法	1) 健康教育のねらい・方法 2) 健康教育のプロセス 3) 健康教育の評価
	3. 健康教育の実際	1) 各ライフステージ（学童期、思春期、育児期、壮年期、老年期）の健康課題 2) 健康教育実践例 3) 家庭・地域における健康教育 4) 職場における健康教育 5) 学校における健康教育
	4. 健康教育における倫理的配慮	1) プライバシー保護と倫理的配慮 2) 健康情報の有効活用
II. 健康教育学各論 個別健康教育・健康相談のための知識・技術	1. 疾病構造の変化と予防医療	1) 日本における疾病構造の変化 2) 予防の概念と予防医療の目的・方法 3) 心身の疾病予防管理
	2. 予防医療の実際	1) 健診・検診の目的・種類・データの活用 2) 特定健康診査・特定保健指導の目的・方法 3) 特定健康診査における健康相談・個別保健指導の実際
	3. 生活習慣改善における健康相談・個別保健指導の実際	1) 運動・身体活動の改善指導の方法と実際 2) 栄養・食事改善の指導の方法と実際 3) 禁煙の勧奨・支援の方法と実際

健康教育学

大項目	中項目	小項目
Ⅲ. 集団への健康教育の展開 (グループワーク)	1. 健康教育 演習 (1)~(7)	1) グループニング 2) 演習テーマの設定 (ライフステージ、ライフスタイル、メンタルヘルス、疾病等の要因を考慮) 3) 健康教育実践に必要な基礎知識の学習 4) 健康教育教案作成 5) 教材の作成・選択
	2. 健康教育 演習 (8)~(10)	1) 健康教育ロールプレイ (発表) 2) 健康教育ロールプレイ (相互評価)
	3. 健康教育 まとめ	1) 健康教育の評価 2) 総合評価を踏まえた健康教育の再構成

評価方法

出席状況、講義への参加態度、講義ごとの課題の提出、演習への参加態度、演習成果発表、基礎学習および健康教育教案のレポート等により総合的に評価する。

教科書

なし

参考図書

	新版 保健師業務要覧 第3版	日本看護協会出版会	2013
中村裕美子 ^他	標準保健師講座 2 地域看護技術	医学書院	2009
荒賀直子 ^他 編	公衆衛生看護学.Jp 第3版	インターメディカル	2011
	Public Health Nursing in Japan		
宮坂忠夫 ^他	健康教育論	メヂカルフレンド社	2006
高野 陽 ^他 編	改訂 7 版 母子保健マニュアル	南山堂	2010
日本小児科学会 ^他 編	心と体の健診ガイド - 乳児編 - 第2版	日本小児医事出版社	2006
日本小児科学会 ^他 編	心と体の健診ガイド - 幼児編 -	日本小児医事出版社	2000
大淵修一	絵を見てできる介護予防	法研	2005
	- 運動・食事・住まいの工夫で自立した高齢期を -		
大淵修一	自分でできる介護予防	厚生出版社	2005
	- 高齢者の介護予防支援ガイドブック -		

<講義スケジュール>

1	2014. 1.16	木	9:00~10:25	中田 晴美	健康教育の意義・理論
2	1.16	木	10:35~12:00	坂井理映子	疾病構造の変化と予防医療の実際
3	1.23	木	9:00~10:25	中田 晴美	健康教育の方法・実際・倫理的配慮
4	1.23	木	10:35~12:00	坂井理映子	生活習慣改善における健康相談・個別保健指導の実際
5	1.30	木	13:00~14:25	中田 晴美 他*	健康教育 演習(1)
6	1.30	木	14:35~16:00		健康教育 演習(2)
7	1.30	木	16:10~17:35		健康教育 演習(3)
8	2. 5	水	9:00~10:25		健康教育 演習(4)
9	2. 5	水	10:35~12:00		健康教育 演習(5)
10	2.13	木	13:00~14:25		健康教育 演習(6)
11	2.13	木	14:35~16:00		健康教育 演習(7)
12	2.20	木	9:00~10:25		健康教育 演習(8) 健康教育ロールプレイ
13	2.20	木	10:35~12:00		健康教育 演習(9) 健康教育ロールプレイ
14	2.20	木	13:00~14:25		健康教育 演習(10) 健康教育ロールプレイ
15	2.20	木	14:35~16:00	健康教育まとめ	

* 中田 晴美、柳 修平、伊藤 景一、服部真理子、犬飼かおり、遠藤 直子、清水 信輔、坂井理映子

人間性を育む

〔英語Ⅱ〕 A：日常会話

科目責任者 木村みどり

科目担当者 角田 麻里

目的

日常生活と看護の現場の両方で役立つ自然な英語表現を、DVD 及び CD 教材を使用し、多くの会話練習を通して実践的に使える英語を身につける。

到達目標

1. 自己紹介ができる。
2. 自分の意見を英語で述べる・表現することができる。
3. お互いの英語を聞き取り、やりとりをすることができる。
4. 病院内、外で簡単なやりとりができる。

大項目	中項目	小項目
I. 英会話	1. 日常英会話	教科書および CD・DVD 教材を利用し、自然な英会話ができるよう練習（グループワーク、ペアワークなど）を行う。 さまざまなテーマについて考え、自分の意見を述べるよう練習をする。
	2. 看護英会話	医療の現場に必要な語彙をたくさんの会話練習から学ぶ。実践に結び付くようになるべく、状況などをロールプレイしつつ会話練習を行う（DVD 使用）。

評価方法

平常点（出席、積極的な授業参加）、テスト（スピーキング、筆記）、発表などを総合して評価を行う

教科書

Marc Helgesen, Steven Brown, and John Wiltshier	English Firsthand 1	Pearson	2010
Yasuko Onjohji & John Skelton	Everyday English for Nursing on DVD	成美堂	2010

その他随時プリントなどにて紹介

＜講義スケジュール＞

1	2013. 5. 8	水	13:00～14:25	角田 麻里	オリエンテーション、授業説明
2	5. 8	水	14:35～16:00	角田 麻里	[IIB] Unit7: I'd love that job
3	5.15	水	13:00～14:25	角田 麻里	[看護] Unit 1:Greetings
4	5.15	水	14:35～16:00	角田 麻里	[IIB] Unit 8: What's playing
5	5.22	水	10:35～12:00	*	Lecture by HPU
6	5.29	水	13:00～14:25	*	Presentation by HPU students(総合外来センター5階 大会議室)
7	5.29	水	14:35～16:00	*	Presentation by HPU students(総合外来センター5階 大会議室)
8	6.12	水	13:00～14:25	角田 麻里	[IIB] Unit 9: What are you going to do?
9	6.19	水	13:00～14:25	角田 麻里	[看護] Unit 2: Giving Explanations
10	6.19	水	14:35～16:00	角田 麻里	[IIB] Unit 10: How much is this?
11	6.26	水	13:00～14:25	角田 麻里	[看護] Unit 3:Tests (X-ray)
12	6.26	水	14:35～16:00	角田 麻里	[IIB] Unit 11: How do you make it?
13	7. 3	水	13:00～14:25	角田 麻里	[看護] Unit 4: Inviting the Patient to Talk, and Listening
14	7. 3	水	14:35～16:00	角田 麻里	[IIB] Unit 12: Listen to the music
15	7.10	水	13:00～14:25	角田 麻里	[看護] Unit 5: Nursing Care and Asking Permission
16	7.10	水	14:35～16:00	角田 麻里	[IIB] Introduction to presentation
17	10.23	水	13:00～14:25	角田 麻里	[看護] Unit 6: Injection
18	10.23	水	14:35～16:00	角田 麻里	[IIB] Thinking of topic
19	12.11	水	13:00～14:25	角田 麻里	[看護] Unit 7: Vital Signs
20	12.11	水	14:35～16:00	角田 麻里	[IIB] Thinking of outline
21	2014. 1. 8	水	13:00～14:25	角田 麻里	[看護] Unit 8: Rehabilitation and Asking Questions
22	1. 8	水	14:35～16:00	角田 麻里	[IIB] Writing the script
23	1.22	水	13:00～14:25	角田 麻里	[看護] Unit 9: Operation
24	1.22	水	14:35～16:00	角田 麻里	[IIB] Writing the script
25	1.29	水	13:00～14:25	角田 麻里	[看護] Unit 10: Positioning the Patient and giving Instructions
26	1.29	水	14:35～16:00	角田 麻里	[IIB] Presentation preparation
27	2. 5	水	13:00～14:25	角田 麻里	[IIB] Presentation preparation
28	2. 5	水	14:35～16:00	角田 麻里	[IIB] Presentation preparation
29	2.12	水	13:00～14:25	角田 麻里	テスト
30	2.12	水	14:35～16:00	角田 麻里	プレゼンテーション

* 木村みどり、角田 麻里、ロバート・バーンズ

＜講義スケジュール＞

1	2013. 5. 8	水	13:00～14:25	木村みどり	Unit 5 How do I get there? (English Firsthand)
2	5. 8	水	14:35～16:00	木村みどり	Unit 6 What happened? (English Firsthand)
3	5.15	水	13:00～14:25	木村みどり	1. Four sisters
4	5.15	水	14:35～16:00	木村みどり	Unit 6 What happened? (English Firsthand)
5	5.22	水	10:35～12:00	*	Lecture by a professor of HPU
6	5.29	水	13:00～14:25	*	Presentation by HPU students(総合外来センター5階 大会議室)
7	5.29	水	14:35～16:00	*	Presentation by HPU students(総合外来センター5階 大会議室)
8	6.12	水	13:00～14:25	木村みどり	2. Happy Christmas
9	6.19	水	13:00～14:25	木村みどり	3. The Laurence boy
10	6.19	水	14:35～16:00	木村みどり	Unit 7 I'd love that job (English Firsthand)
11	6.26	水	13:00～14:25	木村みどり	4. The house next door
12	6.26	水	14:35～16:00	木村みどり	Unit 8 What's playing? (English Firsthand)
13	7. 3	水	13:00～14:25	木村みどり	5. A surprise for Beth
14	7. 3	水	14:35～16:00	木村みどり	Unit 9 What are you going to do? (English Firsthand)
15	7.10	水	13:00～14:25	木村みどり	6. Amy in trouble
16	7.10	水	14:35～16:00	木村みどり	Unit 10 How much is this? (English Firsthand)
17	10.23	水	13:00～14:25	木村みどり	7. Meg hears some gossip
18	10.23	水	14:35～16:00	木村みどり	Unit 11 How do you make it? (English Firsthand)
19	12.11	水	13:00～14:25	木村みどり	8. All play and no work
20	12.11	水	14:35～16:00	木村みどり	Unit 12 Listen to the music (English Firsthand)
21	2014. 1. 8	水	13:00～14:25	木村みどり	9. Secrets
22	1. 8	水	14:35～16:00	木村みどり	Review (English Firsthand)
23	1.22	水	13:00～14:25	木村みどり	10. A telegram
24	1.22	水	14:35～16:00	木村みどり	Review (English Firsthand)
25	1.29	水	13:00～14:25	木村みどり	会話テスト
26	1.29	水	14:35～16:00	木村みどり	会話テスト
27	2. 5	水	13:00～14:25	木村みどり	会話テスト
28	2. 5	水	14:35～16:00	木村みどり	会話テスト
29	2.12	水	13:00～14:25	木村みどり	Readingテスト
30	2.12	水	14:35～16:00	木村みどり	映画鑑賞

* 木村みどり、角田 麻里、ロバート・バーンズ

〔英語Ⅱ〕 C：医学英会話

科目責任者 木村みどり
 科目担当者 ロバート・バーンズ

目的

臨床看護英語の知識の習得、及び、医療現場における患者や医師との会話習得

到達目標

1. 英語による授業を理解し、英語で質問できる。
2. 臨床看護の基本英単語を聞いて理解し、会話の中でも使用することができる。
3. 医療現場における基本的な会話を理解し、応答ができる。
4. 医療関係者が直面するいくつかの問題を取り上げ、ディスカッションすることができる。

大項目	中項目	小項目
I. Study medical terminology	1. Introduction to Basic English Medical Vocabulary. 2. Improve students' medical vocabulary, and their understanding of medical terminology and hospital sections names.	Learn basic, common daily medical names of hospital personnel (persons). 1) Sections & areas and instruments (used by doctors, nurses, etc). 2) Introduce vocabulary to help describe quality, quantity of different medical situations, e.g. medicine amounts, time to take medicine, how often, describing the medical problem of the patient.
II. Communication practice in English	3. Communication practice in English.	Role playing of daily Medical conversations in English, e.g. Nurse to patient, nurse to doctor.

評価方法

授業参加、課題、テストなどを総合して評価を行う

教科書

Virginia Allum & Patricia McGarr Cambridge English for Nursing Cambridge 2010
 Pre-intermediate Student's Book with Audio CD
 (Cambridge English for Series)

その他、必要に応じてプリントを配布する

＜講義スケジュール＞

1	2013. 5. 8	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Orientation- Students English level check
2	5. 8	水	14:35～16:00	ロバート・バーンズ	Unit 1 Admitting Patients
3	5.15	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Unit 1 Admitting Patients
4	5.15	水	14:35～16:00	ロバート・バーンズ	Unit 1 Admitting Patients Presentation
5	5.22	水	10:35～12:00	*	Lecture by HPU
6	5.29	水	13:00～14:25	*	HPU - PRESENTATIONS(総合外来センター5階 大会議室)
7	5.29	水	14:35～16:00	*	HPU - PRESENTATIONS(総合外来センター5階 大会議室)
8	6.12	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Unit 2 Caring for Patients after an Operation Presentation
9	6.19	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Unit 3 Caring for terminally ill patients
10	6.19	水	14:35～16:00	ロバート・バーンズ	Unit 3 Caring for terminally ill patients Presentation
11	6.26	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Unit 3 Caring for terminally ill patients Presentation
12	6.26	水	14:35～16:00	ロバート・バーンズ	Unit 3 Caring for terminally ill patients
13	7. 3	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Unit 4 The District Nurse
14	7. 3	水	14:35～16:00	ロバート・バーンズ	Unit 4 The District Nurse Presentation
15	7.10	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Midterm
16	7.10	水	14:35～16:00	ロバート・バーンズ	Unit 4 The District Nurse Presentation
17	10.23	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Unit 5 Helping Patients with Rehabilitation
18	10.23	水	14:35～16:00	ロバート・バーンズ	Unit 5 Helping Patients with Rehabilitation Presentation
19	12.11	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Unit 5 Helping Patients with Rehabilitation Presentation
20	12.11	水	14:35～16:00	ロバート・バーンズ	Unit 5 Helping Patients with Rehabilitation
21	2014. 1. 8	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Unit 6 Mobilising Patients
22	1. 8	水	14:35～16:00	ロバート・バーンズ	Unit 6 Mobilising Patients Presentation
23	1.22	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Unit 6 Mobilising Patients
24	1.22	水	14:35～16:00	ロバート・バーンズ	Unit 6 Mobilising Patients Presentation
25	1.29	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Unit 8 Helping Patients Presentation
26	1.29	水	14:35～16:00	ロバート・バーンズ	Unit 8 Helping Patients Presentation
27	2. 5	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Unit 8 Helping Patients Presentation
28	2. 5	水	14:35～16:00	ロバート・バーンズ	Unit 8 Helping Patients Presentation
29	2.12	水	13:00～14:25	ロバート・バーンズ	Review
30	2.12	水	14:35～16:00	ロバート・バーンズ	Test

* 木村みどり、角田 麻里、ロバート・バーンズ

〔英語Ⅳ〕（選択科目）：ハワイ大学

科目責任者：木村みどり

科目担当者：木村みどり

目的

実体験を通して、英語によるコミュニケーション、ハワイ州およびアメリカの医療、歴史、文化、伝統、社会状況を学ぶ

到達目標

1. 簡単な会話を英語で行うことができる。
2. ハワイ・パシフィック大学（HPU）での講義を、できるだけ英語で理解する。
3. 英語で日本を紹介するプレゼンテーションをすることができる。
4. 日米の歴史のつながりについて理解する。

大項目	中項目	小項目
Ⅰ.スピーキング	1. 海外生活のための英会話	1) 飛行場や税関における英会話 2) ホテルにおける英会話 3) 様々な交通手段を利用するときの英会話 4) 買い物をするときの英会話
	2. 英語によるスピーチ	1) 自分や家族、東京女子医科大学について話す 2) 日本の医療について話す 3) 与えられたテーマについて話す
Ⅱ.リスニング	3. 必要な情報を英語で聞き取る	1) 日常生活におけるコミュニケーション 2) アメリカやハワイの歴史 3) アメリカの医療

評価方法：日本での事前研修態度、HPUでの授業態度、プレゼンテーションの成果
ハワイでの街頭インタビュー(6人以上)の総合

教科書

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する

参考資料

佐藤 公雄 編著 First Time Abroad 「初めての海外旅行」 成美堂 1997
その他、必要に応じてプリントを配布する

英語Ⅳ(ハワイ)

<講義スケジュール>

1	2013. 7. 6	土	9:00~10:25	木村みどり	壮行会 (HPU & Alverno)
2	7. 6	土	10:35~12:00	木村みどり	旅行社オリエンテーション (情報実習室)
3	7.16	火	9:00~10:25	木村みどり	自己紹介の練習
4	7.16	火	10:35~12:00	木村みどり	オリエンテーション(含:旅行社)
5	7.16	火	13:00~14:25	木村みどり	インタビューの練習
6	7.16	火	14:35~16:00	木村みどり	ハワイの歴史について学ぶ
7	7.17	水	9:00~10:25	木村みどり	日系移民・日米戦争について学ぶ
8	7.17	水	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(1)
9	7.17	水	13:00~14:25	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(2)
10	7.18	木	9:00~10:25	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(3)
11	7.18	木	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(4)
12	7.19	金	9:00~10:25	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(5)
13	7.19	金	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(6)
14	7.23	火	19:00頃		出発
15					グループ・プレゼンテーションの練習 (7) ハワイ・パシフィック大学にて授業 英語によるグループ・プレゼンテーション クイーンズ・メディカルセンター訪問 ハワイについて調査したことの復習 フィールドワーク
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28	7.30	火	16:00頃		帰国
29	10.19	土	13:00~14:25	木村みどり	帰国報告会の準備
30	10.19	土	14:35~16:00	木村みどり	帰国報告会

〔英語Ⅳ〕（選択科目）：アルバーノ大学

科目責任者：木村みどり

目的

国際的に活躍できる医療従事者になるための勉強と経験を積む。本学を代表する学生として、提携校であるアルバーノ大学の授業や看護実習に参加し、国際交流を図る。

到達目標

1. 日常英会話ができる。
2. 基本的な看護英語を理解し使える。
3. 英語による看護の授業を理解できる。
4. 日本における看護事情や社会情勢、文化について英語で話せる。

大項目	中項目	小項目
Ⅰ. 医療従事者として国際的に通用する英語力をつける	1. アルバーノ大学での授業を理解する	1) 必要な情報を英語で聞き取る 2) 自分の考えを英語で発表する 3) 日本の看護事情について話す 4) 医療トピックについてディスカッションする
	2. 看護実習病院で英語によるコミュニケーションを行なう	1) Medical Terms 増強 2) さまざまな医療関係のトピックを学ぶ
Ⅱ. 国際人としての視野を広げる	1. アルバーノ大学の学生と交流する	1) 日常英会話の実践 2) アルバーノ・カレッジや外国からの学生と交流を持ち、意見を交換する。

評価方法：研修前の日本での授業におけるテスト、アルバーノ大学よりの報告書、帰国報告プレゼンテーションの総合

教科書

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する

参考資料

行時 潔/Daniel Droukis	Experience an English Program! 語学留学に行こう	松柏社	2006
Steven Widdows, Peter Voller	CHATTERBOX	南雲堂	2006
その他、必要に応じて、プリント配布			

英語Ⅳ(アルバーノ)

<講義スケジュール>

1	2013. 7. 6	土	9:00~10:25	木村みどり	壮行会
2	7. 6	土	10:35~12:00	木村みどり	旅行社オリエンテーション
3	8. 7	水	9:00~10:25	木村みどり	Health Assessment-Community, Family, Individual
4	8. 7	水	10:35~12:00	木村みどり	Nursing Theory of acutely & chronically Ill Populations
5	8. 8	木	9:00~10:25	木村みどり	Physiological Mechanisms & Disease
6	8. 8	木	10:35~12:00	木村みどり	Overview of Alverno College
7	8. 9	金	9:00~10:25	木村みどり	Vulnerable people
8	8. 9	金	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
9	8.19	月	9:00~10:25	木村みどり	Nutrition in wellness 看護英語の復習
10	8.19	月	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
11	8.20	火	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
12	8.20	火	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
13	8.21	水	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
14	8.21	水	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
15	8.22	木	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
16	8.22	木	10:35~12:00	木村みどり	総合復習 & 留学直前 オリエンテーション
17	8.23	金	9:00~10:25	木村みどり	総合復習 & 留学直前 オリエンテーション
18				木村みどり	アルバーノ大学にて授業および実習
19				木村みどり	
20				木村みどり	
21				木村みどり	
22				木村みどり	
23				木村みどり	
24				木村みどり	
25				木村みどり	
26				木村みどり	
27				木村みどり	
28				木村みどり	
29	10.19	土	13:00~14:25	木村みどり	帰国報告まとめ
30	10.19	土	14:35~16:00	木村みどり	帰国報告会

【英語Ⅳ】（選択科目）：梨花女子大学

科目責任者：木村みどり

科目担当者：木村みどり、近藤 暁子

【目的】

国際的に活躍できる医療従事者になるための勉強と経験を積む。本学を代表する学生として、提携校である梨花女子大学（韓国）の授業や看護実習に参加し、看護の学びを深めながら国際交流を図る。

【到達目標】

1. 日常英会話ができる。
2. 基本的な看護英語を理解し使える。
3. 英語による看護の授業を理解できる。
4. 日本における看護事情や社会情勢、文化について英語で話せる。

大項目	中項目	小項目
Ⅰ. 医療従事者として国際的に通用する英語力をつける	1. 梨花女子大学での授業を理解する	1) 必要な情報を英語で聞き取る 2) 自分の考えを英語で発表する 3) 日本の看護事情について話す 4) 医療トピックについてディスカッションする
	2. 看護実習病院で英語によるコミュニケーションを行なう	1) Medical Terms 増強 2) さまざまな医療関係のトピックを学ぶ
Ⅱ. 国際人としての視野を広げる	1. 梨花女子大学の学生と交流する	1) 日常英会話の実践 2) 梨花女子大学の学生と交流を持ち、意見を交換する。

評価方法：日本での事前授業における参加態度、帰国報告プレゼンテーションの総合

教科書

なし

参考資料

必要に応じて、プリント配布

<講義スケジュール>

1	2014. 2.18	火	10:35～12:00	木村みどり	Orientation
2	2.18	火	13:00～14:25	木村みどり	Preparation for speech & conversation
3	2.18	火	14:35～16:00	木村みどり	Transcultural Nursing
4	2.19	水	10:35～12:00	木村みどり	Traditonal Nursing Therapy
5	2.19	水	13:00～14:25	木村みどり	Nursing Informatics
6	2.19	水	14:35～16:00	木村みどり	International Nursing
7	2.21	金	10:35～12:00	近藤 暁子	Nursing Research 1
8	2.21	金	13:00～14:25	近藤 暁子	Nursing Research 2
9	2.24	月	10:35～12:00	近藤 暁子	Nursing Research 3
10	2.24	月	13:00～14:25	近藤 暁子	Nursing Research 4
11	3. 6	木	10:35～12:00	木村みどり	Practice for Presentation/Speech/Conversation
12	3. 6	木	13:00～14:25	木村みどり	壮行会
13	3.10	月	10:35～12:00	木村みどり	Internaional Nursing
14	3.14	金	10:35～12:00	木村みどり	Nursing in Today's World
15	3.14	金	13:00～14:25	木村みどり	Practice for Presentation/Speech/Conversation
16	3.15	土			出発
17					梨花女子大学にて授業
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29	3.25	火	10:35～12:00	木村みどり	帰国報告まとめ
30	未定			木村みどり	帰国報告会 (HPU & EWHA)

〔フランス語Ⅱ〕（選択科目）

科目責任者 後藤美和子

目的

フランス語を学び、他者とのコミュニケーション能力及び他文化を理解する力を高める。

到達目標

基礎的なフランス語を、話し、聞き、読み、書くことができるようになること。

大項目	中項目	小項目
I. フランス語の発音	1. 発音の完成	1) リエゾン、アンシェヌマン、エリジオン 2) イントネーション
II. フランス語の初級文法の完成	1. さまざまな時制	1) 現在形の復習 2) 過去形 3) 未来形
III. フランス語での応用的なコミュニケーション	1. 表現と伝達	1) 現在、過去、未来を語る 2) 自分を表現する 3) 相手の話を聞く
IV. フランス文化	1. 映画 2. 絵本 3. 歌	字幕付きで、フランス映画を鑑賞する フランス語の絵本を原書で読む フランスの歌を聞き、内容を理解し、部分的にでも歌えるようにする

評価方法

出席状況、平常点、試験結果により総合的に評価を行います。

対象

「フランス語Ⅰ」を既に履修した学生、もしくは何らかの手段で初級フランス語を学んだことのある学生。

教科書

「フランス語Ⅰ」のクラスで使用した教材を続けて使います。

備考

辞書を購入してください。授業でも説明しますが、以下のものを推奨します。

- ・クラウン仏和辞典（三省堂）
- ・デュコ仏和辞典（白水社）

<講義スケジュール>

1	2013. 5.13	月	14:35~16:00	後藤美和子	オリエンテーション
2	5.13	月	16:10~17:35	後藤美和子	これまでの復習
3	5.20	月	14:35~16:00	後藤美和子	冠詞、名詞、形容詞について
4	5.20	月	16:10~17:35	後藤美和子	シャンソンを聴く
5	5.27	月	14:35~16:00	後藤美和子	新しい動詞を覚える
6	5.27	月	16:10~17:35	後藤美和子	近い未来と近い過去を語る
7	6.10	月	14:35~16:00	後藤美和子	フランス語のスペルの読み方
8	6.10	月	16:10~17:35	後藤美和子	シャンソンを聴く、歌詞を発音する
9	6.17	月	14:35~16:00	後藤美和子	新しい動詞を覚える
10	6.17	月	16:10~17:35	後藤美和子	道案内をする
11	6.24	月	14:35~16:00	後藤美和子	フランス映画を見る
12	6.24	月	16:10~17:35	後藤美和子	フランス映画を見る
13	7. 1	月	14:35~16:00	後藤美和子	非人称構文
14	7. 1	月	16:10~17:35	後藤美和子	天気表現と時間表現
15	7. 8	月	13:00~14:25	後藤美和子	目的語人称代名詞と代名動詞
16	7. 8	月	14:35~16:00	後藤美和子	買い物をしたり、レストランで注文する時の表現
17	10.21	月	13:00~14:25	後藤美和子	定期テスト1
18	10.21	月	14:35~16:00	後藤美和子	フランス映画を見る
19	12. 9	月	13:00~14:25	後藤美和子	複合過去形（1）
20	12. 9	月	14:35~16:00	後藤美和子	過去のことを語る（1）
21	2014. 1. 6	月	13:00~14:25	後藤美和子	複合過去形（2）
22	1. 6	月	14:35~16:00	後藤美和子	過去のことを語る（2）
23	1.20	月	13:00~14:25	後藤美和子	半過去形と単純未来形
24	1.20	月	14:35~16:00	後藤美和子	絵本を読む
25	1.27	月	13:00~14:25	後藤美和子	絵本を読む
26	1.27	月	14:35~16:00	後藤美和子	絵本を読む
27	2. 3	月	13:00~14:25	後藤美和子	絵本を読む
28	2. 3	月	14:35~16:00	後藤美和子	絵本を読む
29	2.10	月	13:00~14:25	後藤美和子	総復習
30	2.10	月	14:35~16:00	後藤美和子	定期テスト2

〔中国語〕（選択科目）

科目責任者 劉 秋佳

目的

中国語を初めて学ぶ、入門の授業。読む、書く、聞く、話すことができるため、中国語の基礎を学ぶ。特に聞くことと話すことに重点を置き、初級レベルの中国語コミュニケーション能力を身につけることが基本目的である。

または、中国文化と社会事情の賞関連資料の配布、中国の映画、漫画、映像、写真の鑑賞、気功体験、料理作りなどを通じて中国文化と社会事情の理解を深めることも目指す。

到達目標

1. 中国語の発音をマスターし、基本的な文法を理解する。
2. 簡単な日常会話を聞き取れるようにする。
3. 簡単な日常会話を話せるようにする。
4. 基本的な中国語を読めるようにする。
5. 基本的な中国語を書けるようにする。
6. 現代中国の文化や社会の一端を理解する

大項目	中項目	小項目
I. 基礎の固め	発音と基礎文法を習得する	1) 四声とピンインを正確に読める 2) 日常よく用いる単語を覚える
II. 応用力の養成	初級的なコミュニケーションの能力を身につける	3) 文の構成、基本文型の把握する 4) 基本文と否定文や疑問文の読み書き 5) 挨拶の表現ができる 6) 人についての表現ができる
III. 中国への理解	中国文化と社会を知ろう	7) 日常生活についての表現ができる 8) 自己紹介を話せる 9) 簡単な中国語の文を書ける 10) 中国文化と社会事情を知る 11) 中国文化と社会の理解を深める 12) 中国の映画を見る

評価方法

授業内評価：授業内の会話練習、小テスト、課題レポート、出席や学習の姿勢を総合評価する。

教科書

授業時に指示する。プリントの配布も。

参考図書

中日・日中辞書（具体的には授業時指示する）

<講義スケジュール>

1	2013. 5. 9	木	9:00~10:25	劉 秋佳	導入	中国語の特徴と学習方法
2	5. 9	木	10:35~12:00	劉 秋佳	発音1	四声、単母音、複母音、挨拶語
3	5.16	木	9:00~10:25	劉 秋佳	発音2	子音、鼻母音、挨拶語、数字、曜日
4	5.16	木	10:35~12:00	劉 秋佳	発音3	複母音、鼻母音、姓名と西暦の言い方
5	5.23	木	9:00~10:25	劉 秋佳	発音4	半母音、特殊発音、変調、是の述語文
6	5.23	木	10:35~12:00	劉 秋佳	発音5総合練習	発音の総合練習と発音小テスト
7	5.30	木	9:00~10:25	劉 秋佳	課文1	初対面の挨拶とお名前の尋ねについて
8	5.30	木	10:35~12:00	劉 秋佳	課文2	学年、年齢、国籍についての表現
9	6. 6	木	9:00~10:25	劉 秋佳	課文3	学校について
10	6. 6	木	10:35~12:00	劉 秋佳	課文4	家と家族について
11	6.13	木	9:00~10:25	劉 秋佳	課文5	時間と日付について
12	6.13	木	10:35~12:00	劉 秋佳	課文6	一日の行動について
13	6.20	木	9:00~10:25	劉 秋佳	復習練習	要点のまとめと総合練習
14	6.20	木	10:35~12:00	劉 秋佳	テスト	前期学習要点の確認
15	6.27	木	9:00~10:25	劉 秋佳	言語と文化1	中国人の暮らしと習慣
16	6.27	木	10:35~12:00	劉 秋佳	言語と文化1	中国人の暮らしと習慣
17	7. 4	木	9:00~10:25	劉 秋佳	言語と文化2	伝統医学について
18	7. 4	木	10:35~12:00	劉 秋佳	言語と文化2	伝統医学について
19	7.11	木	9:00~10:25	劉 秋佳	言語と文化3	中国養生法1--ツボ体操
20	7.11	木	10:35~12:00	劉 秋佳	言語と文化4	漢詩と歌を習う
21	12.12	木	9:00~10:25	劉 秋佳	中国社会事情	最新映像から見る中国
22	12.12	木	10:35~12:00	劉 秋佳	言語と文化3	中国養生法2--気功
23	2014. 1. 9	木	9:00~10:25	劉 秋佳	言語と文化5	水餃子作り
24	1. 9	木	10:35~12:00	劉 秋佳	言語と文化5	水餃子作り
25	1.30	木	9:00~10:25	劉 秋佳	言語と文化6	中国古代哲学思想--陰陽五行
26	1.30	木	10:35~12:00	劉 秋佳	言語と文化6	中国古代哲学思想--諸子百家
27	2. 6	木	9:00~10:25	劉 秋佳	言語と文化7	孫子兵法と三国志
28	2. 6	木	10:35~12:00	劉 秋佳	中国社会事情	中国外交とアジア
29	2.13	木	9:00~10:25	劉 秋佳	口頭発表	漢詩、歌の発表
30	2.13	木	10:35~12:00	劉 秋佳	口頭発表	自己紹介スピーチとレポート提出

各専門領域への発展

〔研究方法論〕

科目責任者 金子真理子
 科目担当者 金子真理子、中田 晴美、落合 亮太、小林 礼実、
 櫻田 章子、鈴木香緒理、後藤 恵子

目的

看護を科学的に探究するための研究の視点、研究プロセスおよび基本的な研究手法を学習する。
 看護研究の論文をクリティークする視点を学習する。
 研究を行ううえでの倫理について学習し、人間の尊厳を前提とした研究のあり方を理解できる。

到達目標

1. 看護研究の目的と意義を説明できる
2. 看護研究プロセスの概要（量的/質的研究/事例研究/トライアングレーション（triangulation）のデザインの特徴、研究計画立案の基本、データ収集方法、データ分析の考え方の基本と限界、結果の示し方と考察の視点、研究の発表）について説明できる。
3. 文献検索の目的と方法および研究論文のクリティークの視点を理解し、クリティークの視点を説明できる。
4. 研究を行う際に配慮すべき倫理について理解し、必要な倫理的事項を説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 概論	1. 研究とは	1) 研究の定義・看護研究の目的・意義 2) 研究における倫理と倫理的配慮
	2. 研究プロセス	1) 課題の選定・研究計画とは 2) 概念枠組み 3) 研究方法（研究デザイン、対象、方法） 4) データの収集と分析 5) 結果と考察 6) 研究の発表
II. 文献検索	1. 文献の活用	1) 文献とは何か 2) 文献の種類 3) 研究の各段階における文献の活用 4) 論文のクリティークの視点
	2. 文献検索法演習	1) コンピュータ利用による和文文献検索の実際 2) 二次資料の検索の実際 3) 文献カードの作成
III. 量的研究	1. 量的研究の方法	1) 量的研究とは 2) 研究デザイン 3) データ収集の方法 4) データ分析方法
	2. 結果と考察	1) 結果と考察の示し方 2) 研究発表について

研究方法論

大項目	中項目	小項目
IV. 質的研究	1. 質的研究の概観	1) 質的研究とは 2) EBMにおける質的研究の位置づけ
	2. 方法論	1) 質的データの収集方法 2) 内容分析 3) グラウンデッド・セオリー・アプローチ
	3. データの収集と分析	1) インタビューの基本 2) インタビュー演習 3) サンプルングと一般可能性
	4. 論文のクリティーク	1) アカデミックライティングの基本 2) 質的論文のクリティークの視点と実際 3) 質的研究からの発展
V. 事例研究 (ケーススタディ)	1. 事例研究 (ケーススタディ)の概観	1) 事例研究(ケーススタディ)とは 2) 事例研究(ケーススタディ)とリサーチの違い
	2. 事例研究 (ケーススタディ)の方法	1) 事例研究(ケーススタディ)のデータ収集 2) 事例研究(ケーススタディ)のデータ分析と解釈

評価方法

提出物、出席状況により評価を行う

教科書

南裕子 編	看護における研究	日本看護協会出版会	2008
木下 是雄	理科系の作文技術	中公新書	1981

参考図書

近藤潤子監訳	看護研究—原理と方法第2版	医学書院	2010
黒田裕子	黒田裕子の看護研究 step by step 第4版	医学書院	2012
杉野 欽吾	臨床看護研究入門	医学書院	2001
萱間 真美	質的研究実践ノート	医学書院	2009
大木 秀一	量的な看護研究のきほん	医歯薬出版	2011
高木廣文、林 邦彦	エビデンスのための看護研究の読み方、 進め方	中山書店	2006
秋ゆたか	サクサク看護研究	中山書店	2006
小山真理子 監訳	実践に活かす看護研究	中山書店	2008
松木光子、小笠原知枝	これからの看護研究 第3版	ヌーヴェルヒロカワ	2012
木原雅子	医学的研究のデザイン 第3版	メディカル・サイエンス・ インターナショナル	2009
APA(アメリカ心理学会)	APA 論文作成マニュアル 第2版	医学書院	2011
佐藤淑子、和田佳代子編著	看護文献・情報へのアプローチ (JJN スペシャル No. 65)	医学書院	2000

<講義スケジュール>

1	2013. 4.18	木	16:10~17:35	金子真理子	研究の定義、目的・意義
2	4.22	月	13:00~14:25	中田・後藤	文献検討
3*	4.23	火	14:35~16:00	中田 晴美 _{他*1}	文献検索演習(1)
4*	4.23	火	16:10~17:35	中田 晴美 _{他*1}	文献検索演習(2)
3*	4.24	水	14:35~16:00	中田 晴美 _{他*2}	文献検索演習(1)
4*	4.24	水	16:10~17:35	中田 晴美 _{他*2}	文献検索演習(2)
5	5. 7	火	16:10~17:35	金子真理子	研究と倫理、研究デザイン、量的研究の枠組み
6	5.13	月	13:00~14:25	金子真理子	量的研究方法(1)
7	6. 3	月	16:10~17:35	金子真理子	量的研究方法(2)
8	6.12	水	14:35~16:00	金子真理子	量的研究の結果、分析(1)
9	6.17	月	9:00~10:25	金子真理子	量的研究の結果、分析(2) 研究発表
10	6.27	木	14:35~16:00	落合 亮太	質的研究概観
11	6.28	金	13:00~14:25	落合 亮太	質的研究方法論 方法論各論
12	7. 3	水	16:10~17:35	落合 亮太	質的研究方法論 データ収集と分析
13	7. 4	木	14:35~16:00	落合 亮太	質的研究論文のクリティークの視点と実際 (演習)
14	7. 8	月	16:10~17:35	落合 亮太	質的研究論文のクリティークの視点と実際 (演習)
15	7.10	水	16:10~17:35	落合 亮太	質的研究論文のクリティークの発表とまとめ

*1中田 晴美、小林 礼実、櫻田 章子

*2中田 晴美、櫻田 章子、鈴木香緒理

〔キャリア発達論Ⅲ〕

科目責任者 佐藤 紀子

科目担当者 佐藤 紀子、吉田 澄恵、草柳かほる、
山内 英樹、見城 道子、味木 由佳、
金子恵美子、坂本 倫美、天野 陽子

科目の目的

キャリアを「生涯を通しての人の生き方」と定義し、看護学を学ぶことを選択した成人として、自己のキャリアを考え続ける基本的態度を身につける。合わせて、看護専門職者を目指すものとして、組織の中で調和しながら変革を推進し職業を継続するための基礎的な知識を学ぶ。

3年次の目的

専門分野の学習や基礎実習・成人看護学実習Ⅰを通して、学士課程終了後の自己のキャリアをイメージし、将来的な展望を視野に入れつつ学習の指標を定め実行する。各領域の実習に臨むにあたり必要な看護管理学の理論を学び、看護の専門性と機能・チーム医療の担い手としての態度を養う。

到達目標

1. 看護師のキャリアの可能性と展望について理解し、自身の意見を述べることができる。
2. 先輩看護職や先人のキャリアを知ることで、自身のキャリアの方向性について述べるができる。
3. 看護学部 1, 2 年生との交流のための企画・実行を通して、リーダーシップ・フォロワーシップについて考え、自分の意見を述べるができる。
4. 看護学各論実習の実習施設である女子医大病院の概要、看護の理念、ケア提供システム等を理解し、述べるができる。
5. 看護学各論実習に臨むにあたり、看護管理論の知見を理解し、実習において活用することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護職の生涯発達	1. 卒業後のキャリアのイメージ	1) 看護職のキャリアの可能性 2) 【自校教育】東京女子医科大学における医療施設の特徴 3) 吉岡弥生記念講演会への出席 4) 先輩から学ぶ看護職のキャリア
II. 協働の基礎	1. 学部下級生との交流	1) NHR の準備 2) NHR への参加 3) 評価と次年度への引き継ぎ
III. 看護管理	1. 病院組織と看護職	1) 病院の成り立ちと看護部門の役割 2) チーム医療と看護の機能 3) ケア提供システム 4) 師長の行う看護管理 5) 医療安全管理と看護職 6) 臨地実習を通して考える看護管理

成績評価の方法

出席状況、課題への取り組みの態度、レポートによる。

教科書

上泉和子 ^他	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実際[1]看護管理	医学書院	2013
柳田邦夫、陣田泰子、 佐藤紀子 編	その先の看護を変える気づき —学び続けるナースたち	医学書院	2011

参考図書

その都度紹介

<講義スケジュール>

1	2013. 4.16	火	10:35～12:00	佐藤 紀子 _{他*1}	ガイダンス。看護師のキャリアの可能性
2	4.18	木	10:35～12:00	佐藤 紀子 _{他*1}	NHRの企画・準備
3	5.10	金	16:10～17:35	佐藤 紀子 _{他*1}	NHRの企画・準備
4	5.22	水	13:00～14:25	佐藤 紀子 _{他*1}	吉岡弥生記念講演
5	5.22	水	14:35～16:00	佐藤 紀子 _{他*1}	吉岡弥生記念講演
6	5.31	金	9:00～17:35	佐藤 紀子 _{他*2}	NHRへの参加
7	5.31	金	9:00～17:35	佐藤 紀子 _{他*2}	NHRへの参加
8	6.18	火	10:35～12:00	佐藤 紀子	看護管理：病院の成り立ちと看護部門の役割
9	6.18	火	13:00～14:25	佐藤 紀子	看護管理：ケア提供システム
10	6.25	火	9:00～10:25	吉田 澄恵	看護管理：チーム医療と看護の機能
11	7. 2	火	14:35～16:00	坂本 倫美	看護管理：師長の行う看護管理
12	7. 9	火	10:35～12:00	金子恵美子	看護管理：医療安全管理と看護職
13	10.22	火	13:00～14:25	佐藤 紀子 _{他*1}	先輩から学ぶ看護職のキャリア
14	10.22	火	14:35～16:00	佐藤 紀子 _{他*1}	先輩から学ぶ看護職のキャリア
15	10.23	水	16:10～17:35	吉田 澄恵	【自校教育】東京女子医科大学の医療施設の特徴

*1 佐藤 紀子、吉田 澄恵、草柳かほる、山内 英樹

*2 佐藤 紀子、吉田 澄恵、草柳かほる、山内 英樹、味木 由佳、天野 陽子

〔国際看護〕（選択科目）

科目責任者：下平 唯子

科目担当者：下平 唯子、近藤 暁子、味木 由佳

目的

国際看護に関する知識を深め、国内外において看護ニーズを持つ様々な文化背景の人々への理解を深め、適切な看護を提供する上で、看護職者に必要とされる基本的な概念の理解と国際的視点について学ぶ。

到達目標

1. 国際看護の理念について説明できる。
2. 国際協力や国際保健協力活動のありかたについて考えることができる。
3. 世界の看護の動向を理解し、今後の課題について考えることができる。
4. さまざまな文化背景や状況にある人々の看護を考えることができる。
5. 諸外国の看護教育制度や保険医療制度の特徴を理解し、健康問題について考えることができる。
6. 諸外国での研修を通して国際的な視点で看護を考えることができる。

大項目	中項目	小項目
I. 国際看護	1. 看護とグローバル化 2. 国際看護学とは	1) グローバリゼーションの中の健康 2) グローバルヘルス、国際保健
II. 世界の看護の動向	1. 世界が直面している健康問題 2. 国際協力の世界的動向 3. 看護の動向	1) ミレニアム開発目標 2) 貧困と健康問題、先進国の健康問題 1) 人間の安全保障 2) 国際協力における日本の役割 1) 看護実践上の問題点
III. 多文化理解と看護	1. フィリピン先住民族の生活と健康 2. 日本における路上生活者の健康問題	1) アニミズムと健康 2) 病気の原因、健康観 1) 路上生活者の健康観や死生観 2) 生活の実態と身体・心理的健康問題
IV. 国際保健協力活動	1. 国際保健協力活動の実際	1) 国際協力の目的、 2) ネパールにおける口唇口蓋裂治療プロジェクト
V. 看護教育制度・保険医療制度	1. 国際比較	1) 日米の看護教育制度・保険医療制度の特徴 2) 米国における高度実践看護師制度
VI. 海外研修	1. 多文化理解と看護	1) ハワイ・パシフィック大学、アルバーノ大学、韓国梨花女子大での研修

評価方法：出席状況、海外研修の参加度、レポート、発表

参考図書

- 人間の安全保障委員会：安全保障の今日的課題、朝日新聞社、2003
 国際看護研究会 編：国際看護学入門、医学書院、1999
 系統看護学講座 災害看護・国際看護学、医学書院、2010
 100人村教材編集委員会：世界がもし100人の村だったら、開発教育協会、2006
 国連広報センター：プレスリリース（週報）

＜講義スケジュール＞

1	2013. 4.19	金	9:00～10:25	下平 唯子	オリエンテーション、国際看護総論
2	4.19	金	10:35～12:00	下平 唯子	世界がもし100人の村だったら
3	4.23	火	9:00～10:25	下平 唯子	世界の看護の動向
4	4.23	火	10:35～12:00	下平 唯子	多文化理解と看護
5	4.26	金	9:00～10:25	味木 由佳	ネパールにおける国際協力
6	4.26	金	10:35～12:00	味木 由佳	口唇口蓋裂治療プロジェクトに参加して
7	4.26	金	13:00～14:25	近藤 暁子	日米の看護教育制度の特徴
8	7. 1	月	9:00～10:25	近藤 暁子	日米の保険医療制度の特徴
9	7. 1	月	10:35～12:00	下平/近藤	HPU大学・アルバーノ大学研修準備
10	7. 2	火	9:00～10:25	近藤 暁子	米国・世界の高度実践看護師（APN）制度
11	7. 2	火	10:35～12:00	下平/近藤	HPU大学・アルバーノ大学研修準備
12	7. 3	水	9:00～10:25	下平/近藤	国際交流演習
13					(13:00-14:00 壮行会)
14					
15					
16					
17					
18					
19					7.23～7.30 (HPU研修)
20					8月下旬～9月上旬 (アルバーノ大学研修) *
21					3月上旬 (韓国梨花女子大学研修) *
22					
23					
24					
25					
26	9. 5	木	9:00～10:25	下平/近藤	研修レポート作成
27	9. 5	木	10:35～12:00	下平/近藤	研修レポート作成
28	9. 6	金	9:00～10:25	下平/近藤	研修レポート作成
29	10.19	土	13:00～14:25	下平/近藤	海外研修帰国報告会(次年度国際看護履修希望者も参加可能)
30	10.19	土	14:35～16:00	下平 唯子	最終評価

* 海外研修のアルバーノ・梨花女子大学参加希望者は英語Ⅳの該当科目を聴講すること

統合実習・卒業論文
(4年次科目)

〔統合実習Ⅰ・統合実習Ⅱ・卒業論文〕（４年次科目）

統合実習Ⅰ・統合実習Ⅱ

科目責任者 日沼 千尋

科目担当者 水野 敏子、伊藤 景一、小川久貴子、佐藤 紀子、下平 唯子、田中美恵子、
日沼 千尋、守屋 治代、金子真理子、菊池 昭江、近藤 暁子、関森みゆき、
中田 晴美、吉田 澄恵、青木 雅子、嵐 弘美、犬飼かおり、奥野 順子、
落合 亮太、加藤 京里、草柳かほる、見城 道子、小山 達也、小山千加代、
坂井 志麻、竹内 道子、服部真理子、原 三紀子、原田 通予、益田美津美、
宮内 清子、味木 由佳、天野 陽子、飯塚あつ子、飯塚 幸恵、異儀田はづき、
井上 友里、遠藤 直子、小林 礼実、櫻田 章子、清水 信輔、鈴木香緒理、
田幡 純子、成澤 明、原 美鈴、原沢のぞみ、三浦美奈子、山内 英樹

卒業論文

科目責任者 日沼 千尋

科目担当者 荒井 純子、伊藤 景一、小川久貴子、木村みどり、佐藤 紀子、下平 唯子、
田中美恵子、日沼 千尋、水野 敏子、守屋 治代、柳 修平、伊東 栄子、
尾崎 恭子、金子真理子、神山 暢夫、菊池 昭江、近藤 暁子、諏訪 茂樹、
関森みゆき、中田 晴美、松寄 英士、吉田 澄恵、青木 雅子、嵐 弘美、
犬飼かおり、奥野 順子、落合 亮太、加藤 京里、草柳かほる、見城 道子、
小山 達也、小山千加代、坂井 志麻、竹内 道子、服部真理子、原 三紀子、
原田 通予、益田美津美、宮内 清子、味木 由佳、天野 陽子、飯塚あつ子、
飯塚 幸恵、異儀田はづき、井上 友里、遠藤 直子、小林 礼実、櫻田 章子、
清水 信輔、鈴木香緒理、田幡 純子、成澤 明、原 美鈴、原沢のぞみ、
三浦美奈子、山内 英樹

統合実習Ⅰ目的

選択した看護専門領域において、保健医療福祉チームの一員として看護を統合的かつ継続的に実践するために必要な知識と技術の統合を図る。この学習を通して、自己の課題を明確化し、統合実習Ⅱに取り組む姿勢を高める。

統合実習Ⅱ目的

４年間で学習した知識と技術を統合し、自ら選択した看護専門領域において、臨床実践を中心に学習し、保健医療福祉チームの一員として看護を統合的かつ継続的に展開して、看護の実践力を高める。

卒業論文目的

各自のこれまでの看護学の学びの中で究明すべき課題を見出し、その課題に関連深い専門分野をもつ教員の指導のもとに、課題の探究に取り組む。その成果を報告するまでのプロセスを通して、生涯にわたり継続して看護の専門性を高めていくための各自の展望を、一層深く意識する機会とする。

〔統合実習・卒業論文日程〕

2014年1月14日(火)Ⅳ限 統合実習・卒業論文オリエンテーション

2月24日(月)Ⅰ限 担当領域別オリエンテーション

*担当領域別オリエンテーション以降は、領域ごとに日程を定める

養護教諭一種免許課程

〔公衆衛生学〕

科目責任者 柳 修平

科目担当者 柳 修平

目的

看護の対象は健康の増進、疾病の予防、そしてあらゆる年齢およびあらゆるヘルスケアの場および地域社会における、身体的、精神的に健康でない人々および障害のある人々へのケアを含めた全体的な看護実践領域である。社会人間集団における健康問題に対して、予防を中心とした科学的解決を目指す力を獲得するとともに健康事象の関係および保健・医療・福祉・介護の課題をアセスメントする能力を学ぶ。

到達目標

1. QOL の視点から健康支援の展開を述べられる。
2. 健康と生活を評価する基礎的な健康指標を説明できる。
3. 人間のライフサイクルについて基本的な保健統計から説明できる。
4. 生活者のライフサイクルと健康増進に対応した看護活動を説明できる。
5. 社会構造（家族、コミュニティ、国際化）と健康事象との関係を説明できる。
6. 生活者の生活問題に関連する法制度および看護活動について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 健康と公衆衛生	1. 公衆衛生の概念	1) 公衆衛生の領域、活動の特徴 2) ヘルスプロモーションの展開 3) WHO 世界保健機関加盟国の役割 4) 国際保健活動
II. 健康指標と予防	1. 健康に関連した指標	1) 人口静態統計 2) 人口動態統計 3) 平均余命、健康寿命 4) 罹患率・有病率・受療率
	2. 感染症とその予防	1) 感染症の成立要因 2) 感染症の流行現象 3) 感染症予防関連法規 4) 疾病予防と予防接種
III. 看護活動	1. 衛生行政と地域保健管理	1) 衛生行政関連法規 2) 地域における地域保健管理活動
	2. 乳幼児期の健康管理	1) 母子保健活動関連法規 2) 地域における母子保健活動
	3. 学童期の健康管理	1) 学校保健活動関連法規 2) 健康診断・健康相談 3) 感染予防
	4. 職場の健康管理	1) 労働衛生管理関連法規 2) 職業と疾病 3) トータルヘルスプロモーションプラン

大項目	中項目	小項目	
IV. 医療保健福祉制度	5. 生活習慣病予防	1) 主な生活習慣病の現状 2) 循環器疾患の予防 3) 糖尿病の予防 4) がんの予防	
	6. 高齢者の健康管理	1) 高齢者保健活動関連法規 2) 介護予防・生活支援関連法規 3) 高齢者保健福祉活動の現状	
	7. 障害者の健康管理	1) 関連法規の現状 2) 精神保健福祉活動の現状	
	1. 社会保険・医療保険制度	1) 関連法規の経緯と現状 2) 制度の体系 3) 医療経済	
	2. 保健福祉計画と活動	1) 子ども・子育て応援プラン 2) 障害者基本計画と障害者プラン 3) 特定疾患治療研究事業 4) 在宅看護サービス	
	V. 医療の機能と役割	1. 医療関連法規	1) 医療法 2) 医療従事者関連法規
		2. 医療サービスの供給体制	1) 医療施設の機能 2) 在宅医療 3) 訪問看護ステーション 4) 薬局の種類と機能 5) 医療過誤、看護倫理

評価方法

試験結果、課題レポート、出席状況により総合的に評価を行う

教科書

国民衛生の動向 2012/2013	厚生統計協会	2012
新版 保健師業務要覧 第3版	日本看護協会出版会	2013

参考図書

	労働衛生のしおり (平成24年度版)	中央労働災害防止協会	2012
	最新保健学講座 第3版 (全7巻+別巻)	メヂカルフレンド社	2011
杉本正子	第5版在宅看護論	ヌーヴェルヒロカワ	2008
和田 攻	第5版産業保健マニュアル	南山堂	2006
奥山則子	標準保健師講座 1 地域看護学概論	医学書院	2011

中村裕美子	標準保健師講座 2 地域看護技術	医学書院	2009
松田正己	標準保健師講座 3 対象別地域看護活動	医学書院	2008
高野 陽	改定 7 版 母子保健マニュアル	南山堂	2010
柳川 洋、中村好一	公衆衛生マニュアル 2012	南山堂	2012
松浦賢長 ^他 編	コンパクト公衆衛生学 (第 5 版)	朝倉書店	2013

<講義スケジュール>

1	2013. 5.14	火	9:00~10:25	柳 修平	健康観の変遷と公衆衛生
2	5.14	火	10:35~12:00	柳 修平	人口静態統計
3	5.17	金	16:10~17:35	柳 修平	人口動態統計①
4	5.20	月	9:00~10:25	柳 修平	人口動態統計②
5	5.21	火	16:10~17:35	柳 修平	わが国の医療制度と医療政策
6	5.24	金	9:00~10:25	柳 修平	疫学と予防活動①
7	6. 3	月	9:00~10:25	柳 修平	疫学と予防活動②
8	6. 4	火	16:10~17:35	柳 修平	衛生行政と地域保健管理
9	6. 7	金	16:10~17:35	柳 修平	母子保健
10	6.10	月	9:00~10:25	柳 修平	生活習慣病と健康増進
11	6.19	水	16:10~17:35	柳 修平	高齢者の保健と福祉
12	6.24	月	9:00~10:25	柳 修平	精神保健
13	6.27	木	16:10~17:35	柳 修平	学校保健
14	6.28	金	16:10~17:35	柳 修平	産業保健
15	7. 2	火	16:10~17:35	柳 修平	試験

〔学校保健〕

科目責任者 千葉まき子

目的

学校教育における学校保健の意義としくみ、養護教諭としての仕事の進め方の実際について学ぶ。

到達目標

1. 学校保健活動の意義、課題について理解できる。
2. 子どもの健康問題とその対応について説明できる。
3. 養護教諭の具体的な実践を学び、学校保健活動の進め方について理解できる。

大項目	中項目	小項目
I. 子どもの健康実態と課題	1. 子どもの健康実態 2. 子どもの心とからだ	1) からだのおかしさの実感 2) 各種保健統計より 1) 子どもの発育発達 2) 心の問題 3) 子どもの健康実態から見る健康課題
II. 学校保健の概念	1. 養護教諭の役割 2. 学校保健のしくみ	1) 養護教諭の歴史に学ぶ 2) 養護教諭に求められるもの 1) 学校教育における学校保健の意義と目的 2) 学校保健の特性 3) 学校保健の運営と関わる人々
III. 学校における保健室の役割	1. 保健室の機能と役割 2. 保健室・養護教諭とは	1) 保健室の日常 2) からだにこだわる養護教諭 3) 保健室の機能と役割 1) 教育実践者としての養護教諭 2) 相談活動
IV. 救急処置	1. 救急処置 2. 健康障害と指導	1) 子どもの傷病の実際 2) 校内救急体制と安全教育 1) 感染症予防 2) 特別支援教育
V. 健康診断	1. 健康診断の意義 2. 健康診断計画	1) 健康診断の目的 2) 健康診断の項目 1) 教育としての健康診断 2) 健康診断の結果を生かす
VI. 保健教育	1. 保健教育の意義と実践 2. 保健指導	1) 多様な保健教育の場 2) 養護教諭と保健教育 1) 保健の授業と養護教諭 2) 保健指導

学校保健

大項目	中項目	小項目
VII. 組織活動	1. 学校保健組織活動	1) 校内組織と学校保健 2) 学校保健委員会 3) 家庭・関係機関との連携
	2. これからの学校保健	1) 学校保健の役割

評価方法

授業参加態度、レポート、試験

教科書

教育科学研究会・藤田和也 編	保健室と養護教諭	国土社	2008
教育養成系大学保健協議会 編	学校保健ハンドブック 第5版	ぎょうせい	2009

参考図書

衛藤隆、岡田加奈子 編	学校保健マニュアル 改訂8版	南山堂	2010
大谷尚子他編著	新養護学概論	東山書房	2009
東京芽の会理論委員会編	ひろがれ保健室のしごと	芽の会	2006
田中なつみ 著	いのちまるごと子どもたちは訴える	高文研	2003
穴戸洲美 編著	養護教諭の役割と教育実践	学事出版	2000
全国養護教諭サークル協議会 編	雑誌「保健室」(隔月刊)	農山漁村文化協会発行	
学校健康教育法令研究会 監修	学校保健・学校安全法令必携 第7次改訂	ぎょうせい	2012

<講義スケジュール>

1	2013.12.10	火	13:00～14:25	千葉まき子	子どもの心とからだ
2	12.10	火	14:35～16:00	千葉まき子	保健室でとらえた子どもの健康実態
3	12.13	金	13:00～14:25	千葉まき子	養護教諭の歴史から学ぶ
4	12.13	金	14:35～16:00	千葉まき子	学校保健の意義、しくみ
5	2014. 1.17	金	13:00～14:25	千葉まき子	保健室の機能と役割Ⅰ
6	1.17	金	14:35～16:00	千葉まき子	保健室の機能と役割Ⅱ
7	1.21	火	13:00～14:25	千葉まき子	救急処置
8	1.21	火	14:35～16:00	千葉まき子	健康障害と指導
9	1.24	金	10:35～12:00	千葉まき子	健康診断の意義と目的
10	1.24	金	13:00～14:25	千葉まき子	教育としての健康診断
11	1.28	火	13:00～14:25	千葉まき子	養護教諭と保健教育
12	1.28	火	14:35～16:00	千葉まき子	保健指導
13	1.31	金	13:00～14:25	千葉まき子	学校保健組織活動
14	1.31	金	14:35～16:00	千葉まき子	これからの学校保健
15	2. 7	金	10:35～12:00	千葉まき子	試験

〔養護概説〕

科目責任者 日沼 千尋

科目担当者 日沼 千尋、伊藤 景一、奥野 順子

目的

現代の学校教育における学校保健の重要性を踏まえ、養護の概念や養護教諭制度の沿革、学校における養護教諭の役割や活動など、養護全般を理解する。そして、養護教諭の職務に関する基礎・基本的な内容を理解し、学校全体の保健計画を考えられる

到達目標

1. 教育における養護の概念を説明することができる。
2. 養護教諭の役割、職務内容について説明することができる。
3. 学校保健計画を考案することができる。

大項目	中項目	小項目		
I. 養護の概念と養護教諭	1. 養護とは	1) 「養護」の用語的解釈 2) 養護の本質と概念		
	2. 養護の機能	1) 学校教育における養護の機能 2) 養護の対象と範囲		
	3. 養護教諭制度の沿革	1) 養護教諭制度の沿革 2) 児童・生徒の健康問題と養護教諭の変遷		
	4. 養護教諭の職務に関する法的位置づけの変遷	1) 学校教育法における養護教諭 2) 教科の担当 3) 保健主事		
	5. 養護教諭の職務と求められる資質能力	1) 養護教諭の職務内容 2) 養護教諭に必要な基本的資質 3) 養護教諭に必要な職業倫理		
	6. 学校教育と養護教諭	1) 養護教諭養成課程カリキュラム 2) 養護教諭養成課程における現状と課題		
II. 養護教諭の役割、職務	1. 健康診断	1) 健康診断の意義と位置づけ 2) 健康診断の内容 3) 健康診断の計画と実施 4) 事後措置 5) 臨時の健康診断 6) 就学時健康診断		
		2. 健康観察	1) 健康観察の重要性 2) 健康観察の目的 3) 健康観察の法的根拠 4) 健康観察の機会 5) 健康観察の視点 6) 学校生活全般における健康観察	
			3. 健康相談	1) 健康相談の目的 2) 健康相談の法的経緯 3) 関係職種との連携

<講義スケジュール>

1	2013.12.10	火	16:10~17:35	日沼 千尋	養護の概念
2	12.11	水	16:10~17:35	日沼 千尋	養護教諭と職務、役割
3	12.12	木	16:10~17:35	奥野 順子	保健室の役割と組織活動
4	2014. 1. 8	水	16:10~17:35	日沼 千尋	健康診断と健康観察、健康観察
5	1.14	火	9:00~10:25	伊藤 景一	保健調査と健康診断のデータの活用
6	1.14	火	10:35~12:00	日沼 千尋	保健教育と保健指導
7	1.20	月	9:00~10:25	日沼 千尋	養護活動の評価
8	1.20	月	10:35~12:00	奥野 順子 ^{他*}	学校保健計画の作成1
9	1.24	金	9:00~10:25	奥野 順子 ^{他*}	学校保健計画の作成2
10	1.29	水	9:00~10:25	奥野 順子 ^{他*}	学校保健計画の作成3
11	1.29	水	10:35~12:00	奥野 順子 ^{他*}	学校保健計画の作成4
12	2. 6	木	13:00~14:25	奥野 順子 ^{他*}	学校保健計画の発表1
13	2. 6	木	14:35~16:00	奥野 順子 ^{他*}	学校保健計画の発表2
14	2. 6	木	16:10~17:35	奥野 順子 ^{他*}	学校保健計画のまとめ
15	2.12	水	10:35~12:00	日沼 千尋	試験

*奥野 順子、日沼 千尋

〔教育方法論〕

科目責任者 木村みどり
 科目担当者 木村みどり、日沼千尋、
 角田 雅昭

目的

児童・生徒が主体的な学習を進めていくために、授業内で多様な特徴をもつ児童・生徒との関わりを支援する方法や環境の形成、メディアなどを活用した授業の理論と実践にかかわる基礎的な能力を養う。

到達目標

1. 教育方法の歴史について理解することができる。
2. 教育方法の基本原則を理解することができる。
3. 学力と授業について述べるすることができる。
4. 授業理論と授業の設計について述べるすることができる。
5. 視聴覚メディアとコンピュータを活用することができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 教育方法の歴史的概観	1. 教育方法の歴史	1) 教育方法の源流 2) 現代における教育方法
II. 教育方法の基本原則	1. 教育方法の基本原則 2. 共感性を育む教育方法	1) 教授・学習の形態 2) 教授・学習の方法 3) 系統学習と問題解決学習 1) 学級崩壊、学力低下 2) 心の教育の方法
III. 学力と授業	1. 学力とは 2. 授業とは何か 3. 学習者観	1) 学力観の諸相 1) 授業の構造 2) 教材 3) 教室環境の好適性 1) 学びのメカニズム 2) 学びの相互作用
IV. 授業理論と授業の設計	1. 授業理論	1) 教育目標 2) 教育手段 3) 授業の設計と方法 4) 健康教育の授業設計と評価
V. 授業とメディア	1. 視聴覚メディアとコンピュータの活用	1) 教育の多様化 2) マルチメディアの教育活用の方法 3) 健康教育への応用

評価方法

リアクションペーパー、レポート、演習内容、期末試験により総合評価する。

教科書

特に指定しない、必要に応じ資料を配付する。

参考図書

谷田貝公昭 ^他 編著	教育方法論	一藝社	2004
加藤幸次	少人数指導・習熟度別指導	ヴィヴル	2004
片上宗二 ^他 編著	新しい学びをひらく総合学習	ミネルヴァ書房	2001

その他必要に応じて適宜紹介する。

<講義スケジュール>

1	2013.10.21	月	9:00~10:25	角田 雅昭	教育方法の源流・現代における教育方法
2	10.21	月	10:35~12:00	角田 雅昭	教授・学習の形態と方法
3	12. 9	月	9:00~10:25	角田 雅昭	系統学習と問題解決学習
4	12. 9	月	10:35~12:00	角田 雅昭	学級崩壊・学力低下と心の教育
5	12.12	木	13:00~14:25	角田 雅昭	学力観の諸相
6	12.12	木	14:35~16:00	角田 雅昭	授業の構造（教材と教室環境の好適性）
7	2014. 1. 6	月	9:00~10:25	角田 雅昭	学びのメカニズム
8	1. 6	月	10:35~12:00	角田 雅昭	学びと相互作用
9	1.14	火	13:00~14:25	日沼 千尋	目標・教育手段
10	1.22	水	10:35~12:00	日沼 千尋	授業の設計と方法
11	1.28	火	9:00~10:25	日沼 千尋	健康教育の授業設計と評価
12	1.28	火	10:35~12:00	木村みどり	教育の多様化
13	1.31	金	9:00~10:25	木村みどり	マルチメディアの教育活用の方法
14	1.31	金	10:35~12:00	日沼 千尋	健康教育への応用
15	2. 3	月	10:35~12:00	木村みどり	プレゼンテーション

〔生徒指導論〕

科目責任者 松寄 英士

科目担当者 角田 雅昭、松寄 英士

目的

生徒指導においては、変化する教育をめぐる諸状況を理解し、地域社会の変容に伴う家庭・家族関係の変化を正しく理解することが重要である。また、学校生活の中では子ども達を取り巻く社会的状況を注視しながら、子ども達の現状を正しく認識していくことも重要である。このことを踏まえて生徒理解の方法、相談面接の技術、ストレスマネジメント教育の方法、人間関係能力を高めるための方法を、グループワークも取り入れながら理解する。

到達目標

生徒指導の意義と課題を理解し、生徒の現状を説明できる。青少年期の心理と生徒指導の現状と問題行動への対処について説明できる。生徒指導の方法と進め方を説明し、生徒指導体制の充実に向けた取り組みを説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 生徒指導の意義と課題	1. 生徒指導とは	1) 生徒指導の概念、領域・内容 2) 生徒を取り巻くさまざまな現状 3) 生徒の学習面、行動面の今日の特徴
II. 青少年期の心理と生徒指導	1. 青少年期の心の発達 2. 問題行動への対処	1) 適応と発達 2) 心理的課題と指導援助 3) 職業的発達過程を見すえた指導 1) 問題行動の理解と対応 2) ストレスマネジメント 3) リスク行動を避けるための教育指導 4) 自己効力感、レジリエンスを高める教育指導
III. 生徒理解	1. 生徒理解の意義と歴史	1) 教師－生徒関係の原理 2) 生徒理解の現代の特徴
IV. 生徒指導	2. 生徒指導の方法と進め方	1) 集団指導、個別指導 2) 個人適応的指導、社会・公民性の指導、健康・安全指導 3) 進路指導
V. 生徒指導の充実	1. 生徒指導体制	1) 教師の関わりと場の力 2) 共に生きる生徒指導と体制づくり

評価方法

レポート課題、演習内容などにより総合評価する。

教科書

教科書は特に指定しない。必要な教材は適宜配布する。

参考図書

適宜授業中に紹介する。

<講義スケジュール>

1	2013.12.10	火	9:00～10:25	松寄 英士	生徒指導とは、指導と支援
2	12.10	火	10:35～12:00	松寄 英士	子どもを取り巻くさまざまな状況
3	12.11	水	9:00～10:25	松寄 英士	生徒の学習面、行動面の今日の特徴
4	12.11	水	10:35～12:00	松寄 英士	子どもたちの人間関係
5	12.13	金	9:00～10:25	松寄 英士	適応と発達
6	12.13	金	10:35～12:00	松寄 英士	職業的発達過程を見すえた指導
7	2014. 1. 7	火	13:00～14:25	松寄 英士	問題行動の理解と対応
8	1. 7	火	14:35～16:00	松寄 英士	リスク行動を避けるための教育指導
9	1. 9	木	16:10～17:35	角田 雅昭	教師－生徒関係の原理的考察
10	1.16	木	16:10～17:35	角田 雅昭	生徒理解の現代的特徴
11	1.23	木	13:00～14:25	角田 雅昭	生徒指導の方法1 集団指導・個別指導
12	1.23	木	14:35～16:00	角田 雅昭	生徒指導の方法2 健康安全指導等
13	1.27	月	9:00～10:25	角田 雅昭	進路指導
14	1.27	月	10:35～12:00	角田 雅昭	教師の関わりと場の力
15	2.10	月	16:10～17:35	角田 雅昭	共に生きる生徒指導と体制づくり

〔教育相談〕

科目責任者 新保 幸洋

目的

教育相談の基本的な考え方を理解すると共に、それらと関係の深い問題群（不登校、いじめ、児童虐待など）に関する社会的・経済的・心理的背景や要因についても具体的に学び、多面的・多角的に思考しながら、子ども達への支援について考えられるようになること

到達目標

1. 教育相談の歴史・目的・基本的考え方について説明出来る。
2. 教育相談を実施する上での留意点（生徒指導や進路指導との関連性）を述べる事が出来る。
3. カウンセリング・マインドの重要性を理解出来る。
4. 児童期・思春期の発達課題と現代の子どもの生活実態とを関連づけて考える事が出来る。
5. 我が国における子どもの貧困問題の概要を理解し、それが様々な教育問題に負の影響を与えていることを説明出来る。
6. 不登校、いじめ、児童虐待の概要を理解し、それらの問題（具体的な事例）への対応についても必要に応じて紙面上で支援プランを作成し、展開出来る。
7. スクールカウンセリングの歴史、意義、効果、問題点について説明出来る。
8. スクールカウンセラーの学校内における具体的な仕事内容を理解する。
9. スクールカウンセラーとの日常的な連携の仕方について説明出来る。
10. 緊急支援の概要について理解する。
11. 緊急支援時にスクールカウンセラーとどのような連携を行うことが必要なのかを説明出来る。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 教育相談とは何か	1. 教育相談に関する基礎的な理解	1) 教育相談の歴史、目的、基本的な考え方 2) 教育相談を実施する上での留意点 （生徒指導、進路指導との関連について） 3) カウンセリング・マインドの重要性
	2. 子どもの実態把握と発達課題との関連性の検討	1) 児童期、思春期の発達課題と現代の子どもの生活実態 2) 子どもの貧困問題の理解と対応
II. 教育相談の理論と実際	1. 教育相談に関係の深い問題群の理解と対応	1) 不登校の理解と対応 2) 「いじめ」問題の理解と対応 3) 「児童虐待」に関する理解と対応
	2. スクールカウンセリングの理論と実際	1) スクールカウンセリングの歴史と意義、教育面での効果、抱えている問題点等 2) 教育相談との関係性
	3. 学校内外での連携の重要性（“つなぐ”ということ）	1) 学校内での連携の在り方について ①養護教諭としてスクールカウンセラーらとどう連携するか ②保護者、家族との連携と支援

教育相談

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅲ. まとめ		2) 緊急支援、学校外との連携の在り方について ①外部関係機関の機能と連携 ②危機介入の理論と実際 定期テスト

評価方法

リアクションペーパー、レポート、グループ・ディスカッション時での取り組み、期末試験により総合的に評価する。

教科書

特定のもの是指定しない。

参考図書

村瀬嘉代子 ^他 編	青年期の課題と支援	新曜社	2000
村瀬嘉代子 監修	統合的心理臨床への招待	ミネルヴァ書房	2007
藤田和也 編	保健室と養護教諭 その存在と役割	国土社	2008
小泉令三	図説 子どものための適応援助 生徒指導・教育相談・進路指導の基礎	北大路書房	2006
仙崎 武、渡辺三枝子、 野々村新、菊池武剋	「入門生徒指導・相談」	福村出版	2000
文部科学省	生徒指導提要	教育図書	2010

<講義スケジュール>

1	2014. 1. 7	火	9:00～10:25	新保 幸洋	教育相談とは何か、教育相談の歴史、基本的な考え方
2	1. 7	火	10:35～12:00	新保 幸洋	教育相談体制の在り方について(生徒指導、進路指導との関連性について) 子どもの貧困問題の理解と対応①(保健室の実際)
3	1. 8	水	9:00～10:25	新保 幸洋	子どもの貧困問題の理解と対応②(社会的、経済、政治的背景等)
4	1. 8	水	10:35～12:00	新保 幸洋	児童期・思春期の発達課題と子どもの実態把握、様々な問題行動との関連① 児童期・思春期の発達課題と子どもの実態把握、様々な問題行動との関連②
5	1. 9	木	13:00～14:25	新保 幸洋	不登校の理解と対応①
6	1. 9	木	14:35～16:00	新保 幸洋	不登校の理解と対応②
7	1.10	金	9:00～10:25	新保 幸洋	不登校の理解と対応③
8	1.10	金	10:35～12:00	新保 幸洋	不登校の理解と対応④
9	1.16	木	13:00～14:25	新保 幸洋	いじめの理解と対応①
10	1.16	木	14:35～16:00	新保 幸洋	いじめの理解と対応②
11	1.17	金	9:00～10:25	新保 幸洋	いじめの理解と対応③
12	1.17	金	10:35～12:00	樫木 啓二	学校内での連携 ～スクールカウンセラーと日常的にどう連携するのか～
13	1.21	火	9:00～10:25	新保 幸洋	児童虐待の理解と対応
14	1.21	火	10:35～12:00	岡本かおり	学校における緊急支援 ～学校外の組織とどう連携をするのか～
15	1.22	水	9:00～10:25	新保 幸洋	試験

〔日本国憲法〕

科目責任者 西田 幸典

目的

日本国憲法が示す日本のあるべき姿を理解し、教員としての素養を培うことを目的とする。
 (本科目は、主として、養護教諭1種免許状を取得するための必須科目としての位置づけである。)

到達目標

1. 日本国憲法の基本原理を理解することができる。
2. 医療・福祉に関連する憲法問題が争われた判例について、概要・争点・私見をまとめることができる。

大項目	中項目	小項目
I. 憲法とは	1. 歴史的背景 2. 明治憲法 3. 日本国憲法	1) 近代憲法、現代憲法 1) 欽定憲法など 1) 制定時の背景 2) 日本国憲法の全体像
II. 国民主権	1. 国民主権 2. 選挙 3. 象徴天皇制 4. 地方自治	1) 主権者として 2) 機関として 1) 国政選挙 1) 地位、国事行為、内閣の助言・承認 1) 地方自治の歴史、原理 2) 地方公共団体の機関と権能
III. 平和主義	1. 原理 2. 日本国憲法9条 3. 戦争放棄と自衛権 4. 国際協調	1) 自衛隊 1) 国連活動
IV. 基本的人権の保障	1. 人権尊重の原理 2. 人権の体系 3. 自由権 4. 社会権	1) 人権の歴史 2) 一般原則 3) 国民の義務 1) 類型 2) 法の下での平等 3) 新しい人権（幸福追求権） 1) 自由権の構造 2) 精神、人身、経済活動の自由 1) 社会権、受益権
V. 三権分立	1. 国会（立法権） 2. 内閣（行政権）	1) 国会の権能 2) 衆議院・参議院 3) 国会議員 4) 議院の権能 1) 議院内閣制 2) 内閣の組織、権能

大項目	中項目	小項目
VI. 判例	3. 裁判所（司法権）	1) 司法権の独立 2) 裁判所の組織 3) 違憲審査制
	1. 最高裁判所の判例	1) 医療・福祉に関連する判例

成績評価の方法：レポートやグループワークの取り組みによって評価する。欠席は減点の対象とする。

教科書

笠井正俊_他編 岩波セレクト六法 平成25年版 岩波書店 2012

参考図書

伊藤正巳	憲法入門 第4版補訂版	有斐閣	2006
渋谷秀樹、赤坂正浩	憲法1 人権 第4版	有斐閣	2010
渋谷秀樹、赤坂正浩	憲法2 統治 第4版	有斐閣	2010
戸松秀典、初宿正典 編	憲法判例 第6版	有斐閣	2010
高橋和之 _他 編	憲法判例百選Ⅰ 第5版	有斐閣	2007
高橋和之 _他 編	憲法判例百選Ⅱ 第5版	有斐閣	2007
判例六法編修委員会編	模範六法 2013	三省堂	2012
判例六法編修委員会編	模範小六法 2013	三省堂	2012

日本国憲法

<講義スケジュール>

1	2013. 4.20	土	9:00~10:25	西田 幸典	日本国憲法の概観
2	4.20	土	10:35~12:00	西田 幸典	憲法とは
3	4.27	土	9:00~10:25	西田 幸典	国民主権
4	4.27	土	10:35~12:00	西田 幸典	国民主権
5	5.11	土	9:00~10:25	西田 幸典	国民主権
6	5.11	土	10:35~12:00	西田 幸典	平和主義
7	5.25	土	9:00~10:25	西田 幸典	平和主義
8	5.25	土	10:35~12:00	西田 幸典	基本的人権
9	6. 1	土	9:00~10:25	西田 幸典	基本的人権
10	6. 1	土	10:35~12:00	西田 幸典	基本的人権
11	6.15	土	9:00~10:25	西田 幸典	基本的人権
12	6.15	土	10:35~12:00	西田 幸典	三権分立
13	7. 4	木	9:00~10:25	西田 幸典	三権分立
14	7. 4	木	10:35~12:00	西田 幸典	三権分立
15	7.20	土	10:35~12:00	西田 幸典	試験

授業担当教員一覧

看護学部第3学年授業担当教員

[専任教員]

人文社会科学系

心理学	准教授	松寄 英士
社会学	准教授	諏訪 茂樹
英語	教授	木村みどり

基礎科学系

生理学	准教授	神山 暢夫
生化学	准教授	伊東 栄子

臨床医学系

内科学	教授	荒井 純子
外科学	准教授	尾崎 恭子

看護学系

基礎看護学	教授	守屋 治代
	准教授	菊池 昭江

	講師	加藤 京里
	講師	見城 道子

	助教	味木 由佳
	助教	天野 陽子

成人看護学	教授	下平 唯子
	准教授	金子真理子

	准教授	近藤 暁子
	講師	原 三紀子

	講師	落合 亮太
	講師	益田美津美

	助教	原 美鈴
	助教	三浦美奈子

	助教	小林 礼実
	助教	鈴木香緒理

看護職生涯発達学	教授	佐藤 紀子
	准教授	吉田 澄恵

老年看護学	教授	水野 敏子
	講師	小山千加代

	講師	坂井 志麻
	助教	原沢のぞみ

	助教	成澤 明
小児看護学	教授	日沼 千尋

	准教授	関森みゆき
	講師	奥野 順子

	講師	青木 雅子
	助教	櫻田 章子

母性看護学	教授	小川久貴子
	講師	竹内 道子

	講師	原田 通予
	講師	宮内 清子

	助教	飯塚 幸恵
	助教	井上 友里

	助教	田幡 純子
--	----	-------

地域看護学	教授	柳 修平
	教授	伊藤 景一

	准教授	中田 晴美
	講師	服部真理子

	講師	犬飼かおり
	助教	遠藤 直子

	助教	清水 信輔
精神看護学	教授	田中美恵子

	講師	小山 達也
	講師	嵐 弘美

	助教	異儀田はづき
	助教	飯塚あつ子

認定看護師教育センター	講師	草柳かほる
	助教	山内 英樹

[兼任教員]

健康科学論	教授	松岡 雅人
	講師	野原 理子

	准講師	蔣池 勇太
	助教	藤木 恒太

	助教	奥津 康祐
老年看護学・各論	講師	松村美由起

	臨床講師	三村 千弦
小児看護学・各論	臨床講師	山田咲樹子

	臨床講師	楡木 志帆
老年看護学・実習	臨床講師	桑原 良子

研究方法論	司書	後藤 恵子
キャリア発達論Ⅲ	講師	金子恵美子

	講師	坂本 倫美
健康教育学	講師	坂井理映子

[兼任教員]

母性看護学	講師	中北 充子
地域看護学・各論	講師	池戸 啓子

在宅看護論	講師	秋山 正子
英語Ⅱ	講師	ロバート・バーンズ

	講師	角田 麻里
フランス語Ⅱ	講師	後藤美和子

中国語	講師	劉 秋佳
学校保健	講師	千葉まき子

生徒指導論・教育方法論	講師	角田 雅昭
教育相談	講師	新保 幸洋

日本国憲法	講師	西田 幸典
-------	----	-------

看護学部第3学年授業担当教員

[医学部看護学部協働教育 担当教員]

小児科学	教授	小國 弘量
皮膚科学	准教授	石黒 直子
神経内科学	准教授	大澤美貴雄
産婦人科学	准教授	牧野 康男
外科学(第一)	講師	小山 邦広
東医療センター内科学	講師	久保 豊
皮膚科学	講師	常深祐一郎
東医療センター小児科学	講師	松岡 尚史
外科学(第二)	准講師	廣澤知一郎
神経精神科学	助教	内出 容子
循環器小児科学	助教	篠原 徳子
消化器外科学	助教	谷口 清章